# 令和7年度教育に関する事務の管理及び 執行の状況の点検及び評価に関する報告書 (令和6年度実施事業対象)

令和7年11月 甲 賀 市 教 育 委 員 会

# 目 次

	はじめに1
	点検・評価の流れ及び結果
1.	点検・評価の流れ2
2.	点検・評価の結果2
3.	事業別検証結果3~9
	甲賀市教育行政評価制度の概要
1.	甲賀市教育行政評価委員会の構成10
2.	甲賀市教育行政評価委員会の活動経過10~11
3.	点検・評価の対象となる事業11
4.	点検・評価の視点11
5.	評価基準12
	おわりに
	資料

甲賀市附属機関設置条例

1.

#### ■ はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(以下「地教行法」という。)により 教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及 び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、 公表することと定められています。

本報告書は、効果的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たすため、令和6年度に実施した事業から評価対象事業を抽出し、教育に関し学識経験を有する方々で構成する「甲賀市教育行政評価委員会」の知見を活用しながら点検及び評価を実施した結果をまとめたものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号) (抜粋) (教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

- 第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により 教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第四項の 規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及 び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作 成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
  - 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学 識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### ■ 点検・評価の流れ及び結果

### 1. 点検・評価の流れ

令和7年度の甲賀市教育行政評価は、事業担当課が作成する点検・評価シートによる担当者評価から始まり、教育委員会事務局担当理事または担当次長による2次評価、引き続き甲賀市教育行政評価委員会による各事業担当課へのヒアリングの結果から合議制により最終評価が決定しました。

その結果は、「令和7年度甲賀市教育行政評価答申書」として答申されました。 これらの点検評価結果を参考に、事業の「必要性」、「有効性」及び「効率性」 などの分析的評価を加えながら今後の事業の方向性を判断し、次年度以降の事業 規模及び手法の改善等、教育委員会の今後の取り組み(具体的方策等)を検討し、 本報告書を作成しました。

#### 2. 点検・評価の結果

事業担当課	点検・評価事業名	担当者評価	2 次評価	最終評価
学校教育課	① 特別支援事業	A	A	A
	② 小中連携事業	В	В	В
	③ スペシャルサポートルーム (SSR) 設置事業	A	A	A
	④ ふるさと甲賀地域学習推進事業(小学校)	A	В	A
社会教育スポーツ課	⑤ 社会教育コーディネーター設置事業 (生涯学習推進事業)	A	В	В
歴史文化財課	⑥ 紫香楽宮跡史跡整備事業	В	В	В
保育幼稚園課	⑦ 保育士研修事業	В	В	В

#### 3. 事業別検証結果

次頁資料「教育委員会施策の点検・評価シート」のとおり

	事業名	特別支	援事業						
	担当課室名		教育委員会事務局 学校教育課		執行方法	法			
		コード			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		コード		
			口彻		会訓		01	一般会計	□140,
	分野	18	学校教育·青少年		款		10	教育費	
総				予	項	į	01	教育総務費	
総合計				算科	目		03	教育振興費	
画	施策	1	   学校教育の充実		大事		03	教育支援事業	
	אכטונו	· ·	3 123713 (3)		中事		03	特別支援事業	
			D.Th.		小事		01	特別支援事業	\ <b>-h</b>
教		コード	<b>名</b> 称			<u>年度</u> 総計		予算額 9,321	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
育振	教育分野	В	学校教育・青少年の健全育成	財				2,003	1,787
興基				源		章文山 <u>业</u> 費支出金		2,987	1,433
基本	(大区分)	(3)	青少年の健全育成	内訳		也方債		_,00.	.,
計	教育施策	(1)	一人ひとりの課題に応じたきめ細やかな		その作	也特定財	源		
画	(中区分)		談・支援の充実		_	·般財源		4,331	5,084
	個別計画等	・医療的 示の範囲	立小中学校における医療的ケアの実施に関 ケアが必要な小中学校に在籍の児童生徒に で実施する。 かかる当該児童生徒の障害の種類と程度に	対して、身					
	事業概要	して甲賀	市教育委員会にその審議結果を答申する。 象・・・・・誰に(何に)						
事業の目的等		(2)活動内容・・・・どのようなことを行うのか 行動計画 実績 ・医療的ケアが必要な小中学校に在籍する児童生徒に対して、身体機能の維持又は健康保持のために必要不可欠な看護等の行為を医師の指示の範囲で実施する。 ・各課、関係機関や保幼小中と連携し、就学指導を行うとともに専門家チーム会議等で特別支援教育の推進を図る。							
	業 の 目 的	・医療的 体機能の 医師の指 ・各課、 専門家チ	行動計画 ケアが必要な小中学校に在籍する児童生徒維持又は健康保持のために必要不可欠な看派の範囲で実施する。 関係機関や保幼小中と連携し、就学指導を一ム会議等で特別支援教育の推進を図る。	に対して、 護等の行為 :行うととも	が ・ に 議	安全に学 教育支援	校生活を	な児童生徒に対し、 送る環境を整えるこ	とができた。
	業 の 目 的	・医療的 体機能の 医師の指 ・各課、 専門家チ	行動計画 ケアが必要な小中学校に在籍する児童生徒 維持又は健康保持のために必要不可欠な看 示の範囲で実施する。 関係機関や保幼小中と連携し、就学指導を	に対して、 護等の行為 :行うととも	が ・ に 議	安全に学 教育支援	校生活を	な児童生徒に対し、 送る環境を整えるこ	とができた。
	業 の 目 的	・体医・専のの指、チのでは、チのでは、チのでは、チのでは、チのでは、チのでは、チのでは、チのでは	行動計画 ケアが必要な小中学校に在籍する児童生徒維持又は健康保持のために必要不可欠な看示の範囲で実施する。 関係機関や保幼小中と連携し、就学指導を一ム会議等で特別支援教育の推進を図る。	に対して、 護等の行為 行うととも 期待する成 ため、必要置 議を行うこ	をには果なすと・	安全に学りである。  医対しを専ったでは、 を対しを表示では、 を対しを表示といる。  を対してきまままままままままままままままままままままままままままままままままままま	校生活を を を を を の必る で で で き 校 で で で で で で で で う で う で う で う で う く で う で う	な児童生徒に対し、 送る環境を整えるこは、多くの事例を教 は、多くの事例を教 児童生徒に対して、 学校看護師、合理 師3名、特別支援学的 多くの事例を教育的	とができた。 育的ニーズに応じて丁寧に審 体調や状況に応じたきめ細か 的配慮コーディネーターを配 吸支援員3名) ニーズに応じて丁寧に審議で
	業 の 目 的	・体医・専のの指、チのでは、チのでは、チのでは、チのでは、チのでは、チのでは、チのでは、チのでは	行動計画 ケアが必要な小中学校に在籍する児童生徒維持又は健康保持のために必要不可欠な看派の範囲で実施する。関係機関や保幼小中と連携し、就学指導を一ム会議等で特別支援教育の推進を図る。 特できる効果・成果・・・・成果目標・目標値 ーズの異なる児童生徒への支援を実現するし、学校看護師、合理的配慮コーディるの場ででは、事例に応じて専門部会で接委員会では、事例に応じて専門部会で協っ場について慎重に検討する。(就学前支援専門部会)	に対して、 護等の行為 行うととも 期待する成 ため、必要置 議を行うこ	心・議・な置・き2	安教で医対し各を受験がある。	が 校生活を で の の の を が で が に で が に で が に で が に で が に で が に で が に で が に で が に で が に で が に で が に で が に で が に で が に で が に で が に で が に で が に に が に が に が に が に が に が に が に が に が に が に に が に が に に が に が に が に が に が に が に が に が に が に が に が に に に に に に に に に に に に に	な児童生徒に対し、 送る環境を整えるこは、多くの事例を教 は、多くの事例を教 児童生徒に対して、 学校看護師、合理 師3名、特別支援学的 多くの事例を教育的	とができた。 育的ニーズに応じて丁寧に審 体調や状況に応じたきめ細か 的配慮コーディネーターを配 吸支援員3名) ニーズに応じて丁寧に審議で
	業 の 目 的	・体医・専のの指、チャー・学る・で学のの指、チャー・学る・で学のでは、カー・学ので学ののでは、カー・学ので学ののでは、カー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディー・ディ	行動計画 ケアが必要な小中学校に在籍する児童生徒維持又は健康保持のために必要不可欠な看派の範囲で実施する。関係機関や保幼小中と連携し、就学指導を一ム会議等で特別支援教育の推進を図る。 特できる効果・成果・・・・成果目標・目標値 ーズの異なる児童生徒への支援を実現するし、学校看護師、合理的配慮コーディるの場ででは、事例に応じて専門部会で接委員会では、事例に応じて専門部会で協っ場について慎重に検討する。(就学前支援専門部会)	に対して、 護等のととも 期待する成 をするの が配 を を うととも が が を うとを で うと を うと を うと を う で う。 で う。 で う。 で う。 で う。 で う。 で う。	心・議 ・ な置・き2 とおいました。	安教で医対し各たアードのでは、一下では、一下では、一下では、一下では、一下では、一下では、一下では、一下	を校生活をできる。 での必る校では受けるできる。 でのきるででできる。 できるででできる。 できるででできる。 できるでできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	な児童生徒に対し、 送る環境を整えるこは、多くの事例を教 実績値 児童生徒に対し、合理 のでは、 の事例を教育的 専門部会事例287 に関する学校に看護師	とができた。 育的ニーズに応じて丁寧に審 体調や状況に応じたきめ細か 的配慮コーディネーターを配 吸支援員3名) ニーズに応じて丁寧に審議で 事例・学齢期支援専門部会2 を配置することで、安心して
	業の目的等	・体医・専のの指、チャー・体医・専のの指、チャー・学る・で学のの指、チャー・学る・で学のの指、チャー・学ので学のでは、チャー・学ので学のできません。	行動計画 ケアが必要な小中学校に在籍する児童生徒維持又は健康保持のために必要不可欠な看示の範囲で実施する。 関係機関や保幼小中と連携し、就学指導を一ム会議等で特別支援教育の推進を図る。 特できる効果・成果・・・・成果目標・目標値 ーズの異なる児童生徒への支援を実現するし、学校看護師、合理的配慮コー爰の場では、事例に応じて専門部会)援委員会では、事例に応じて専門部会)援要門部会)  事業は予定通りに実施できている。医学べる体制づくりができた。教育支援行い、学びの場について慎重に検討する。	に対して、 護等のととも 期待する成 をするの が配 を を うととも が が を うとを で うと を うと を うと を う で う。 で う。 で う。 で う。 で う。 で う。 で う。	心・議・なると・ というできない という という という という という という という という という とい	安教で医対し各たアードのでは、一下では、一下では、一下では、一下では、一下では、一下では、一下では、一下	を校生活をできる。 での必る校では受けるできる。 でのきるででできる。 できるででできる。 できるででできる。 できるでできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできる。 できるできるできるできるできる。 できるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるできるで	を児童生徒に対し、 送る環境を整えるる数 実績値 児童生徒に対い、接続の事例を教名、事例を教名、事例を教名、事例を教育の事事例287 の事事のである。事例を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を	とができた。 育的ニーズに応じて丁寧に審 体調や状況に応じたきめ細が 的配慮コーディネーターを配 吸支援員3名) ニーズに応じて丁寧に審議で 事例・学齢期支援専門部会2 を配置することで、安心して を配置することで、安心して 例に応じて専門部会で協議を
	業の目的等	<ul><li>・体医・専 ( ・学る・で学 ・体医・専 ( ・学る・で学 ・ 体医・専 ( ・学る・で学 ・ 体医・専 ( ・学る・で学 ・ 体歴・</li></ul>	行動計画 ケアが必要な小中学校に在籍する児童生徒維持又は健康保持のために必要不可欠な看示の範囲で実施する。 関係機関や保幼小中と連携し、就学指導を一ム会議等で特別支援教育の推進を図る。 特できる効果・成果・・・・成果目標・目標値 ーズの異なる児童生徒への支援を実現するし、学校看護師、合理的配慮コー爰の場では、事例に応じて専門部会)援委員会では、事例に応じて専門部会)援要門部会)  事業は予定通りに実施できている。医学べる体制づくりができた。教育支援行い、学びの場について慎重に検討する。	に護行 対等 う は 大夕 議援 を で で で で で で で で で で で で で	が ・ は ・ な で ・ な で ・ な で ・ と ・ と ・ と ・ と ・ と ・ と ・ と ・ と	安教で医対し各たアップす、に支たを療応た専。事の別との別とのでは、アでは、自然のの別とのの別とのの別とのの別とのでは、アでは、自然のの別とのでは、アでは、自然のの別とは、アでは、自然ののの可能を表して、	を校生活をできる。 では要しいでは、 では要しいでは、 ではまする。 ではまる。 ではまる。 ではまる。 ではまる。 ではまる。 ではまる。 ではる。 でもる。 でもる	な児童生徒に対し、こ で児童生徒に対るる教 実績値 児童生をを事例を教 実績値 児童生ををでからのでのでででででででいるのでででででいるのでででででででででででででででででで	とができた。 育的ニーズに応じて丁寧に審 体調や状況に応じたきめ細かいである。 の支援員3名) ニータ・学齢期支援専門部会2 事例・学齢期支援専門部会2 を配置することで、安心して を配置することで、安心して を配置することで、安心して を配置するで協議を がはまずる時間を受けるが、会会で に規定する特別支援学校への就学要に に規定する特別支援学校への就学要に に規定する特別支援学校への就学要に に規定する特別支援学校への就学要に に規定する特別支援学校への就学要に に規定する特別支援学校へのが、学要に に規定する特別支援学校へのが、学要に に規定する特別支援学校へのが、学要に に規定する特別支援学校へのが、学要に に規定する特別支援学校へのが、学要に に規定する特別支援学校へのが、学要に に規定する特別支援学校へのが、学要に に規定する特別支援学校へのが、学要に に規定する特別支援学校へのが、学要に に規定する特別支援学校へのが、学要に に規定する特別支援学校へのが、学要に に規定する特別支援学校へのが、学要に に規定する特別支援学校へのが、学要に に規定する特別支援学校へのが、学要に に規定する特別支援学校へのが、学要に に規定する特別支援学校へのが、学要に に対している。 ・会社で、 に対している。 ・会社で、 に対している。 ・会社で、 に対している。 ・会社で、 ・会、 ・会社で、 ・会社で、 ・会、 ・会社で、 ・会社で、 ・会社で、 ・会社で、 ・会社で、 ・会社で、 ・会社で、 ・会社で、 ・会、 ・会社で、 ・会社で ・会、 ・会社で ・会、 ・会社で ・会、 ・会、 ・会、 ・会社で ・会、 ・会、 ・会、 ・会、 ・会、 ・会、 ・会、 ・会、
事業の評価	業の目的等	・体医・専     (     ・学る・で学     検評     適       ・体医・専     (     ・学る・で学     ・価     切       療能の課家     )     援に(育学期     ・価     ・価       的の指、チ     期     二対学支び支     価     令事業にが     事支の	行動計画 ケアが必要な小中学校に在籍する児童生徒維持又は健康保持のために必要不可欠な看別係機関や保幼小中と連携し、就学指導を一ム会議等で特別支援教育の推進を図る。 特できる効果・成果・・・・成果目標・目標値 一ズの異なる児童生徒への支援を実現するし、学校看護師、合理的配慮コーディの場合では、事例に応じてもでの場合では、事例に応じる。(就要員会では、事例に応じる。(就学前支援専門部会)  事業は予定通りに実施できている。を学べる体制づくりができた。教育支援行い、学びの場について慎重に検討する。(1次評価)  「1次評価)  「1次評価)  「1次評価)  「2の異なる場合では、事例に実施できている。を学べる体制づくりができた。教育支援行い、学びの場について「東重に検討するを表現できる、対策を表現できる特別支援学校への就学要件を表現でする特別支援学校への就学要件を表に表現でする特別支援学校への就学要件を表に表現である。「実施できている。」 「3、実は予定通りに実施できている。」 「3、実は予定通りに実施できている。」 「3、実は予定通りに実施できている。」 「4、対応できる、教育を表現できる特別を表現できる、対策を表現できるが増加しているが、その教育的ニーズに対応できた。」	に護行 期 た夕 議援 を専 のと す 、を 行門 が の のと の の の の の の の の の の の の の	を に	安教で医対し各たアデーす、原心に支たを一切では、関係では、関係では、関係では、関係では、関係では、関係では、関係では、関係	を校生活会で を検生活会で のできずに対して、 のできずに対して、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では	な児童生徒を事例を に対えるを 実績値 に対いるを 実績で に対いるを 実績で に護別を に護別を に護別を に護別を に護別を の事の に護別を の事の にで学りののの ののののののののののののののののののののののののののののののののの	とができた。 育的ニーズに応じて丁寧に審 体調や状況に応じたきめ細かいできた。 の支援員のでは、一次では一次では、一次では一次では一次では、一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では一次では
業の評	業の目的等	・体医・専     (     ・学る・で学     検評     適       ・体医・専     (     ・学る・で学     ・価     切       療能の課家     )     援に(育学期     ・価     ・価     つ       的の指、チ     期     二対学支び支     価     令事業にが     事支の     教た	行動計画 ケアが必要な小中学校に在籍する児童生徒維持のために必要不可欠な健康保持のために必要不可欠な言葉を表示の範囲で実施する。関係機関や保幼小中と連携し、就学指導を一人会議等で特別支援教育の推進を図る。 特できる効果・成果・・・成果目標・目標値 「ズの異なる児童生徒への支援を実現する」が看護師、特別支援学のでは、事例に対して、学校看護のはできる。(就学前3名、特別支援学のできた。)の場合できた。(就学前3名、特別でできた。)の場合では、事門部会)  事業は予定通りに実施できている。を接行い、学びの場について慎重に検討する。(1次評価)  「1次評価)  「1次評価)  「1次評価)  「1次評価)  「1次評価)  「1次評価)  「2、「2、「2、「2、「2、「2、「2、「2、「2、「2、「2、「2、「2、「	に護行 期 た夕 議援 医愛す 制電記す れ があった ます 、 を 行門 からこ	ある     に     果 なす と・     をおで     事業の方向性       心・議     ・な置・き2     とは。	安教で 医対し各た7 評 す、 項 業 法 に支た 原応た専。事 価 る過 目 規 改 ですぎ アイ (音家) の 児去 目 模 善 善	<ul><li>(を) で</li><li>(を) で</li></ul>	な児童生徒を事例を に対えるを 実はでいるを 実はでいるでは、 実はでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にででは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでは、 にでいる。 にでい	とができた。 育的ニーズに応じて丁寧に著 体調や状況にディンでである。 体的のでするにです。 本語により、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では、一次では

	教育委員会点検・評価(2次評価)
評価	評価理由
Α	医療的ケアが必要な児童生徒に対して、看護師や合理的配慮コーディネーターを配置する予算を確保し、安心安全な学校生活を送ることが出来る環境を整えており評価できる。児童生徒個々の健康面等の状況を十分 把握し、引き続き予算確保に努めていただくとともに、児童生徒の発達状態に応じて、将来に向けて自立できる支援も併せてお願いしたい。 また、県の補助金の一部で交付要件が厳しくなったとあるが、児童生徒が安心安全に学校生活を送ることが出来るように、要件緩和とともに支援割合の拡充を要望していただきたい。 教育支援委員会では、各課、関係機関や保用幼小中と連携を密に図り、丁寧な聞き取りと観察によって個に応じた学びの場が提供できている。

	教育行政評価委員点検・評価(最終評価)							
評価	評価理由							
A	看護師や合理的配慮コーディネーターを配置し、医療的ケアが必要な児童生徒が安心安全な学校生活を送れる環境を整えたこと、また、検討事例が過去最多であった中においても、インクルーシブ教育の観点を踏まえ、様々な教育的ニーズに対応するため、教育支援委員会において、関係機関や保育園、幼稚園、小学校、中学校間で密に連携し、事例に応じて各専門部会で丁寧に審議され、児童生徒の状況に応じた適切な学びの場を提供したことは、高く評価できる。 一方で、教育支援委員会への諮問件数が増えてきていることから、今まで以上に現場での正確な見取りや保護者への丁寧な説明が望まれる。また、児童生徒一人ひとり異なる様々な事情に対応するため合理的配慮コーディネーターの位置付けをより明確にすることや、保護者の思いと地域や市民のニーズへの対応について、さらには施設や設備の最適化について、一層の充実を図るために日々検討を重ねられたい。このため、厳しくなった県補助金の交付要件緩和の要望活動を含め財源確保に努めることで、児童・生徒が分け隔てなく受け入れられ、共に生きられる学校となるよう、本事業のさらなる向上が望まれる。							

### 教育行政評価委員点検・評価結果を踏まえての教育委員会の今後の取り組み(具体的方策)等について

医療的ケアを必要とする児童生徒が在籍する学校に看護師を配置することで、安心して学べる体制を構築できたことや、教育支援委員会の過去最多の事例検討においても、各専門部会での慎重かつ丁寧な学びの場の検討を行うことができたことについて、事業の必要性や有効性が年々高まっていることを実感している。今後は、児童生徒がより安心安全に学校生活を送ることが出来るように、県の補助金について要件緩和や支援割合の拡充を要望していきたい。また、教育支援委員会への諮問件数増加に対応するため、専門部会の日程を前年度に決定して告知するなど、より計画的な委員会の運営を目指していく。さらに合理的配慮コーディネーターの研修を開催するなど、その位置付けをより明確化することや、施設や設備の最適化について、地域や市民のニーズに対応するための事業について検討していまたい 検討していきたい。

	事業名	小中	連携事	事業			令和 7 ———	~		<b>員会施策の点検・評値</b>	
	担当課室名			数育委員会事務局 学校教育課		執行	· 方法				
						+//۱]		コード			
総合計	分野	18		学校教育•青少年	予算	E	会計 款 項	01 10 01	一般会計 教育費 教育総務費		
計画	施策	1		学校教育の充実	一 算 科 目		事業 中事業 小事業	03 03 06 01	教育振興費 教育支援事業 小中連携事業 小中連携事業		
教		]-	"	名称		-	令和6年度		予算額	決算額	
教育振	教育分野	В	学	校教育・青少年の健全育成	財		総計 国庫支出金		3,842	3,153	
興基本	教育施策の柱 (大区分)	(1)	学	校教育の充実	源 内 訳		県費支出金 地方債				
計画	教育施策 (中区分)	6	小	中連携・一貫教育の推進		そ	の他特定財 一般財源	源	3,842	3,153	
• 義務教				)れた特色ある学校づくりの推進。 )年間を通して「児童生徒の学び」と「指	導や支援	して かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう しゅうしゅう しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう しゅう	円滑に接続	させ, 小中	中連携を推進し、子と	*もたちの学ぶ力の向上や居	
	事業概要	場所づ ・学び	くりにの連続	子						では、こので、こので、こので、こので、こので、こので、こので、こので、こので、こので	
		小学生 中学生 教職員		空・・・・・どのようなことを行うのか							
	重		>>< 1_	行動計画	m10-t-2			£ ##	実績	TO(T)	
	事業の目的等	〇全国 結果を 〇校種 〇中学	学力・ 分析し 間の教 校 校 校 で で	でQU調査を実施し、児童生徒の状態を対象でQU調査を実施し、児童生徒の状態を対象でといる。 学習状況調査や甲賀市版学力調査およびが、各中学校区の状況や課題を検証する。 対職員の交流を進め、相互理解を深める。 が、分学等の事業を支援する。 で行う複数校の児童による合同交流授業を	「QU調査の ♥ OQU調査の実施(市内小学5年生,6年生,中学1年生) ○全国学力学習状況調査の結果分析 ○中学校への体験入学の実施 ○中学校教師派遣事業および校種間交流の実施						
		(3)	期待で	ごきる効果・成果・・・・・成果目標・期 目標値	待する原	果	П				
		の内容 OQUii O体験	②全国学力・学習状況調査(質問紙)「国語,算数・数D内容がわかりますか」80%以上 OQU調査「学級生活満足群」80%以上 O体験入学児童用アンケート「入学に対する不安は和らD)」90%以上				OQU調査「学級生活満足群」60.53% 〇体験入学児童用アンケート「入学に対する不安は和らぎましたか」				
		評価	뒓				評価の現	里由			
	担当課評価	E	3	推進会議において進捗状況や成果と課題版学力調査,QU調査の結果データを分年生の中学校への体験入学を実施し、予会後も小中9年間を見据えた学校教育と	析し,次 とさもたな	マ年度 ちがえ	の各中学校 スムーズに進	区の取り組織できる	flみの重点を検討した 環境づくりができた。	。また、各中学校区で小学	
	教育委員会		<u>5</u> (1)				項目	判断	<u>₩</u>	評価理由	
	必要性	適切	12年 えると てくる 化する	評価理由 次甲賀市小中学校再編計画に関する答申や 度改訂予定の新しい学習指導要領の内容を こ、今後さらに小中一貫教育の重要性が高 る。また、子どもたちを取り巻く環境も日 る中で、小中のスムーズな連携もより重要 でくる。	を踏ま iまっ i人変		事業規模	拡充	に、小中一貫教育の らに本事業の重要性 業に加え教育研究所	校再編計画に関する答申 の充実が盛り込まれ,今後さ が高まっている。現状の事 が教育研究会とも連携し, 記えた教育課程の編成にも取	
事業の評価	有効性	) <del></del>	中学校中で組また。	文区で各種調査等の検証を行うことにより 迷続した指導を行うことができる。 体験入学や教師間交流により,子どもた -ズに進学することができる。		事業の方向性	手法改善	維持	せ, 市内全ての中学 していく。そのため	選単位の活動をより充実さ 校区で小中一貫教育を推進 かによりきめ細やかに各中学 適切に情報提供をしてい	
			計画書	学校区で昨年度の「実績報告書」を基に「 書」を作成し,見通しをもって事業を進め 「学級づくり」についてはまだ課題も残っ	ていてい	手法改	3.246	<u> </u>			
	効率性	適切	るので	で、各種調査等の検証方法や活用方法の検 る必要がある。	祖を		●事業の排	見模の判断	:拡充・維持・縮小	• 休廃IF	

	教育委員会点検・評価(2次評価)
評価	評価理由
В	小学5,6年生、中学1年生で実施しているQUテストは、児童生徒の学級での状況を把握し、よりよい学級づくりや人間関係づくりに効果的な活用ができている。また、小中連携・小中一貫教育推進会議や夏季に行われる各ブロックでの小中学校研修会では、QUテストや全国学力・学習状況調査、甲賀市版学力調査の結果から、ブロックでの課題を明確化、共有化して、取り組み重点を検討し、ブロックごとに小中連携の推進が図られていることは評価できる。アンケートの3項目をみると、中学校体験入学により小中の円滑な接続はできているものの、学習に関することや人間関係づくりが課題となっている。引き続き、現在取り組んでいることを継続しながらも、小中学校の教員が協働し、授業研究を通した教職員の授業力向上や学びの質が高まり、探究的な学びを取り入れたカリキュラム編成など、9年間の学びを通したさらなる小中連携・一貫教育の推進を期待したい。

	教育行政評価委員点検・評価(最終評価)							
評価	評価理由							
В	継続してQUテストを実施し、小学校での集団の課題を中学校に引き継いで、支援に活かしている点やブロック単位での教員の小中連携研修会等の機会を設け、重点とする取組みを検討し、実践している点は評価できる。また、中学校体験入学児童用アンケートにおける「入学に対する不安は和らぎましたか」との問いに対し、全中学校区の90%以上の児童が肯定的な回答をしたことは、「中1ギャップ」の緩和や小中の円滑な接続を目的に行った中学校への体験入学や小小交流、教員の交流などの取組みによるものとして評価できる。また、これらの取り組みによって、小学生の中学校への進学に対する不安が軽減され、スムーズに進学できていることについても評価できる。一方で、全国学力・学習状況調査における学習の理解度やQUテストにおける「学習生活満足群」においては実績値が目標値を下回っていることから、小中学校の教員同士が更に交流を深めつつ、小中学校の教科主任会等で共に系統的な授業実践を行い、協働して授業研究を進めるなど学力向上に向けた連携の更なる充実を図られたい。また、小学校から中学校に進学して学校のスケジュールや一日の流れが変わるなど、子ども達が、今後の生活で経験する様々な「ギャップ」を自分で克服できる力を身につけられるような教育を展開されることも併せて期待する。							

### 教育行政評価委員点検・評価結果を踏まえての教育委員会の今後の取り組み(具体的方策)等について

次年度もQU調査を引き続き実施し、全国学力学習状況調査や甲賀市版学力調査などのデータとともに経年変化を軸に検証していき、その結果を踏まえ、各中学校区の成果や課題に応じて具体的な目標や手だてを設定して研修会や授業研究会を計画し、全教職員共通理解のもと日々の教育活動に取り組めるようにする。また、中学校への体験入学や教職員の校種間交流などの取り組みも継続し、子どもたちへのアンケートや教職員の振り返りなどから内容を精査し、より子どもたちのニーズに合った活動へと発展させて、小中のスムーズな接続を図っていきたい。 さらに、市内すべての中学校区で小中一貫教育を推進していくにあたり、教育委員会として各機関と連携しながら、適切に情報の収集と提供を行っていまた。 また、各中学校区において小中一貫教育の推進体制を確立し、管理機と小中連

| さらに、市内すべての中学校区で小中一貫教育を推進していくにあたり、教育委員会として各機関と連携しながら、適切に情報の収集と提供を行っていきたい。また、各中学校区において小中一貫教育の推進体制を確立し、管理職と小中連携担当や各教科主任などが連携し、各中学校区独自の地域学を核とした総合的な学習の時間のカリキュラムを編成する。 |あわせて、教育課程全般についても議論を進め、義務教育9年間を見通した小中一貫教育の充実を図っていきたい。

		スペシ	/ャルサポートルーム(SSR)	設直事業 							
	担当課室名		学校教育課		執行	方法					
		コード	名称				コード				
						会計	01	一般会計			
	分野	18	学校教育•青少年			款	10	教育費			
総合				2	F	項	01	教育総務費			
合 計					)   	目	03	教育振興費			
画	施策		<b>学校教育の</b> 方由			大事業	05	学びの多様化推進	事業		
		1	学校教育の充実			中事業	02	スペシャルサポー	トルーム(SSR)設置事業		
					J.	]/事業	01	スペシャルサポー	トルーム(SSR)設置事業		
教		コード	名称		-	令和6年度		予算額	決算額		
育	教育分野	В	  学校教育・青少年の健全育原	s <del>t</del>		総計		16,943	12,557		
振	教育力封	Ь	于仅数自"自少牛"00度至自然	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		国庫支出金	Ž		313		
興 基	教育施策の柱	(1)	  学校教育の充実			県費支出金	Ž	7,350	5,688		
本	(大区分)	(1)	3-1XXH***/12X	割	R	地方債					
計 画	教育施策	3	   いじめ・不登校対策への取約	組織化.	7	の他特定財	掠				
ш	(中区分)		VIOW TEXXIX TOTAL	(I) X (U)		一般財源		9,593	6,556		
	法令等根拠										
	個別計画等										
			)学校にSSRを設置し、学校								
		りづらい	1児童が落ち着いた空間で自	目分に合ったペースで	で学習	や生活がで	できる環境	見を整備し、不登校	の未然防止を図る。		
	中架加带										
	事業概要										
			象・・・・・誰に(何に)								
		小学生(不	受校や別室登校の児童)								
		(2)活	動内容・・・・・どのようなな	ことを行うのか							
			行動計画					実績			
	事業		別室登校の児童に対して、学校	校・教室復帰、学習面	の支	市内全小学					
	の	援を行う	0			19校にお  行った。	いてスクー	-リングケアサボータ	ーを51名派遣し、対応を		
						11 7/0					
	的 <del>笔</del>					1					
	的 等										
	的 等	(3)期	待できる効果・成果・・・・	・成果目標・期待する	成果						
	的 等 		目標値		成果	佐 <sup>□</sup> 丁 <sup>□</sup> -		実績値	FIV 5721-47-1 - 10		
	的 等	<ul><li>不登格</li></ul>	目標値 対傾向のある児童の学校復帰	最に向けた改善	成果			個別に関わることに。			
	的 等	<ul><li>不登格</li></ul>	目標値	最に向けた改善	成果	団の中で生	生活したり 95名のう	個別に関わることに。 することができた。 st ち86%の児童が教室	合和6年度SSRを利用した 室へ行けるようになったや		
	的 等	<ul><li>不登格</li></ul>	目標値 対傾向のある児童の学校復帰	最に向けた改善	成果	団の中で生 市内児童9	生活したり 95名のう るくなった	個別に関わることに。 することができた。 st ち86%の児童が教室 等の改善が見られてい	合和6年度SSRを利用した 室へ行けるようになったや Nる。また、SSRの利用ま		
	的 等	<ul><li>不登格</li></ul>	目標値 対傾向のある児童の学校復帰	最に向けた改善	成果	団の中で生 市内児童9 前より明る	生活したり 95名のう るくなった。 が、集団不	個別に関わることに。 することができた。 st ち86%の児童が教室 等の改善が見られてい	合和6年度SSRを利用した 室へ行けるようになったや Nる。また、SSRの利用ま		
	<b>8</b>	<ul><li>不登林</li><li>別室で</li></ul>	目標値 対傾向のある児童の学校復帰 で学習等を行っている児童の	最に向けた改善	成果	団の中で生 市内児童の 前より明るではないが 添った早期	生活したり 95名のう 3くなった が、集団不 明対応を行	個別に関わることに。 することができた。 う ち86%の児童が教写 等の改善が見られてい 適応を起こしそうない	合和6年度SSRを利用した 室へ行けるようになったや Nる。また、SSRの利用ま		
	等	<ul><li>不登格</li></ul>	目標値 対傾向のある児童の学校復帰 で学習等を行っている児童の	最に向けた改善	成果	団の中で生 市内児童9 前より明る	生活したり 95名のう 3くなった が、集団不 明対応を行	個別に関わることに。 することができた。 う ち86%の児童が教写 等の改善が見られてい 適応を起こしそうない	合和6年度SSRを利用した 室へ行けるようになったや Nる。また、SSRの利用ま		
	8 等	<ul><li>不登林</li><li>別室で</li></ul>	目標値 を傾向のある児童の学校復帰で学習等を行っている児童の 関連の特性や実態に合わ	帚に向けた改善 D教室復帰 Dせて、思いに寄り添い	1、個別	団の中で生 市内児の児童の 市内児の児の児の児の別ではないが でった 早期 一の記 できる かい	生活したり 95名のたう 3くなりで 期対応を行 理由 かた対応を	個別に関わることに。することができた。そち86%の児童が教室等の改善が見られてい適応を起こしそうなりうことができた。	合和6年度SSRを利用した さへ行けるようになったやいる。また、SSRの利用ま 記章227名にも教室で寄り		
	的 等 担当課評価	<ul><li>不登林</li><li>別室で</li></ul>	目標値 交傾向のある児童の学校復帰 で学習等を行っている児童の	帚に向けた改善 D教室復帰 Dせて、思いに寄り添い	1、個別	団の中で生 市内児の児童の 市内児の児の児の児の別ではないが でった 早期 一の記 できる かい	生活したり 95名のたう 3くなりで 期対応を行 理由 かた対応を	個別に関わることに。することができた。そち86%の児童が教室等の改善が見られてい適応を起こしそうなりうことができた。	合和6年度SSRを利用した さへ行けるようになったやいる。また、SSRの利用ま 記章227名にも教室で寄り		
		<ul><li>不登林</li><li>別室で</li></ul>	目標値 を傾向のある児童の学校復帰で学習等を行っている児童の 関連の特性や実態に合わ	帚に向けた改善 D教室復帰 Dせて、思いに寄り添い	1、個別	団の中で生 市内児の児童の 市内児の児の児の児の別ではないが でった 早期 一の記 できる かい	生活したり 95名のたう 3くなりで 期対応を行 理由 かた対応を	個別に関わることに。することができた。そち86%の児童が教室等の改善が見られてい適応を起こしそうなりうことができた。	合和6年度SSRを利用した さへ行けるようになったやいる。また、SSRの利用ま 記章227名にも教室で寄り		
		• 不登校 • 別室で	目標値 を傾向のある児童の学校復帰で学習等を行っている児童の 関連の特性や実態に合わ	帚に向けた改善 D教室復帰 Dせて、思いに寄り添い	1、個別	団の中で生 市内児の児童の 市内児の児の児の児の別ではないが でった 早期 一の記 できる かい	生活したり 95名のたう 3くなりで 期対応を行 理由 かた対応を	個別に関わることに。することができた。そち86%の児童が教室等の改善が見られてい適応を起こしそうなりうことができた。	合和6年度SSRを利用した さへ行けるようになったやいる。また、SSRの利用ま 記章227名にも教室で寄り		
	担当課評価	・不登林・別室で	目標値 対傾向のある児童の学校復帰で学習等を行っている児童の 関章の特性や実態に合わ きかけた。合わせて、学	帚に向けた改善 D教室復帰 Dせて、思いに寄り添い	1、個別	団の中で生物では、	生活したり 95名な 95名な 期対 中 中 大 で で で で で で で で で で で で で で で で で	個別に関わることに。 することができた。 名 ち86%の児童が教3 等の改善が見られてい 適応を起こしそうなり うことができた。 行うとともに、周りの 加等多くの改善がみら	合和6年度SSRを利用した 全へ行けるようになったや いる。また、SSRの利用ま 見童227名にも教室で寄り の児童への理解についても られた。		
		・不登林・別室で	目標値 対傾向のある児童の学校復帰で学習等を行っている児童の 関章の特性や実態に合わ きかけた。合わせて、学	帚に向けた改善 D教室復帰 Dせて、思いに寄り添い	1、個別	団の中で生 市内児の児童の 市内児の児の児の児の別ではないが でった 早期 一の記 できる かい	生活したり 95名のたう 3くなりで 期対応を行 理由 かた対応を	個別に関わることにはすることができた。そち86%の児童が教室等の改善が見られてい適応を起こしそうなりうことができた。 行うとともに、周りの加等多くの改善がみられている。	合和6年度SSRを利用した さへ行けるようになったやいる。また、SSRの利用ま 引量227名にも教室で寄り の児童への理解についても られた。 評価理由 別児童生徒がいまだ増加して		
	担当課評価	・不登校・別室で	目標値 対傾向のある児童の学校復帰 学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わ きかけた。合わせて、学 (1次評価) 評価理由 ・受校・不登校傾向児童生徒が	常に向けた改善 D教室復帰 D教室復帰 Pせて、思いに寄り添い P習支援も行うことによ	1、個別	団の中で生物では、	生活したり 95名な 95名な 期対 中 中 大 で で で で で で で で で で で で で で で で で	個別に関わることに。することができた。そち86%の児童が教室等の改善が見られてい適応を起こしそうないうことができた。 行うとともに、周りの加等多くの改善がみられている現状の中、SSF	高和6年度SSRを利用した され行けるようになったやいる。また、SSRの利用ま 記量227名にも教室で寄り の児童200円 の理解についても られた。 評価理由 別児童生徒がいまだ増加して Rが整備され、スクーリン		
	担当課評価	・不登林・別室で	目標値 対傾向のある児童の学校復帰で学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わ きかけた。合わせて、学 (1次評価) 評価理由 登校・不登校傾向児童生徒が SRがどの学校にもあること、	常に向けた改善 D教室復帰 D教室復帰 D社で、思いに寄り添い 学習支援も行うことによ 増加している中、 そこで寄り添い関	1、個別	団の内のはなった。神気を持ち、はなった。はなった。は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	生活したり 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 1	個別に関わることに。することができた。そち86%の児童が教室等の改善が見られてい適応を起こしそうないうことができた。 行うとともに、周りの加等多くの改善がみられている現状の中、SSFケアサポーターが配	高和6年度SSRを利用した をへ行けるようになったや いる。また、SSRの利用ま 見童227名にも教室で寄り の児童への理解についても られた。 評価理由 別児童生徒がいまだ増加しる 別が整備され、スクーリン会 置されていることは、不能		
	担当課評価	・ 不登校 ・ 別室 で	目標値 対傾向のある児童の学校復帰 で学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わ きかけた。合わせて、学 (1次評価) 評価理由 で登校・不登校傾向児童生徒が SRがどの学校にもあること、 のってもらえるスクーリングケ	帯に向けた改善 D教室復帰 D教室復帰 D社で、思いに寄り添い 学習支援も行うことによ 増加している中、 そこで寄り添い関 アサポーターが配置	1、個別	団の中で生物では、	生活したり 155 155 155 155 155 155 155 155 155 15	個別に関わることに。することができた。そち86%の児童が教室等の改善が見られてい適応を起こしそうないうことができた。 行うとともに、周りの加等多くの改善がみられている現状の中、SSF	高和6年度SSRを利用した され行けるようになったやいる。また、SSRの利用ま では、SSRの利用ま では、SSRの利用ま では、SSRの利用ま では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、		
	担当課評価	・ 不登校 ・ 別室 で	目標値 対傾向のある児童の学校復帰で学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わきかけた。合わせて、学 (1次評価) ご登校・不登校傾向児童生徒が SRがどの学校にもあること、 いってもらえるスクーリングケ にれていることは、不登校未然	帯に向けた改善 D教室復帰 D教室復帰 D社で、思いに寄り添い 学習支援も行うことによ 増加している中、 そこで寄り添い関 アサポーターが配置	1、個別	団の内のはなった。神気を持ち、はなった。はなった。は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	生活したり 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 1	個別に関わることに。することができた。そち86%の児童が教室等の改善が見られてい適応を起こしそうないうことができた。 行うとともに、周りの加等多くの改善がみられている現状の中、SSFケアサポーターが配	高和6年度SSRを利用した され行けるようになったやいる。また、SSRの利用ま では、SSRの利用ま では、SSRの利用ま では、SSRの利用ま では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、		
	担当課評価	・ 不 登 校 ・ 評 価 切 で あ で か さ か さ か さ か さ か さ か さ か さ か さ か さ か	目標値 対傾向のある児童の学校復帰で学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わきかけた。合わせて、学 (1次評価) ご登校・不登校傾向児童生徒が SRがどの学校にもあること、 いってもらえるスクーリングケ にれていることは、不登校未然	帯に向けた改善 D教室復帰 D教室復帰 D社で、思いに寄り添い 学習支援も行うことによ 増加している中、 そこで寄り添い関 アサポーターが配置	<b>\、個</b> 別	団の内のはなった。神気を持ち、はなった。はなった。は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	生活したり 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 1	個別に関わることに。することができた。そち86%の児童が教室等の改善が見られてい適応を起こしそうないうことができた。 行うとともに、周りの加等多くの改善がみられている現状の中、SSFケアサポーターが配	高和6年度SSRを利用した をへ行けるようになったやいる。また、SSRの利用ま で見立とであり のは立とであり の児童への理解についても られた。 評価理由 の児童生徒がいまだ増加して のが整備され、スクーリング にしまれていることは、不動		
	教育委員会点	<ul><li>・ 不 S れ さ る</li><li>・</li></ul>	目標値 対傾向のある児童の学校復帰で学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わきかけた。合わせて、学 (1次評価) 評価理由 ・不登校傾向児童生徒が SRがどの学校にもあること、 いってもらえるスクーリングケ されていることは、不登校未然 の。	同に向けた改善 の対室復帰 のせて、思いに寄り添い ででである。 ででである。 ででである。 でである。 でである。 でである。 のにくい児童にとっ	<b>\、個</b> 別	団の内のはなった。神気を持ち、はなった。はなった。は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	生活したり 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 1	個別に関わることによ することができた。 名 ち86%の児童が教室 等の改善が見られてい 適応を起こしそうなり うことができた。 行うとともに、周りの 加等多くの改善がみら 不登校・不登校傾向 いる現状の中、SSF ケアサポ防止には必 SSRを使う児童の思	高和6年度SSRを利用した さへ行けるようになったや いる。また、SSRの利用ま 見童227名にも教室で寄り の児童への理解についても られた。 評価理由 別児童生徒がいまだ増加して お整備され、スクーリング 温置されていることは、不到 である。		
事業	担当課評価 教育委員会点 必要性	<ul><li>・ 不</li></ul>	目標値 対傾向のある児童の学校復帰で学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わ きかけた。合わせて、学 (1次評価) 評価理由 登校・不登校傾向児童生徒が SRがどの学校にもあること、 されていることは、不登校未然 されていることは、不登校未然 でいることは、不登校大気 になるスクーリングケ	同に向けた改善 の数室復帰 のせて、思いに寄り添い ででである。 ででである。 ででである。 でである。 でである。 でである。 のにくい児童にとっ ででかいる。	いのの	団の内のはなった。神気を持ち、はなった。はなった。は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	生活したり 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 1	個別に関わることによってきた。全ち86%の児童が教見られている。全ち86%の児童が教見られている。 等応を起こしてきた。 行うとともに、馬りのからからなりできた。 行うとともの改善がみられている現状の中の中のでは、 をいる現状である。 SSRを使う児童の思また、教室内で不適	評価理由 別児童生徒がいまだ増加して Rが整備され、スクーリング 置されていることは、不登 である。		
事業の	担当課評価 教育委員会点 必要性	<ul><li>・ 不</li></ul>	目標値 対傾向のある児童の学校復帰で学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わきかけた。合わせて、学 (1次評価) 評価理由 登校・不登校傾向児童生徒が SRがどの学校にもあること、 されていることは、不登校未然 されていることは、不登校未然 で、ことで、心の安心・安定につな	同に向けた改善 の数室復帰 のせて、思いに寄り添い ででである。 ででである。 ででである。 がのである。 のにくい見童にとっている。 のにくい見童にとっている。 のにくいり、自分のペース	いいのの場合では、事業の方のでは、	団の内のはなった。神気を持ち、はなった。はなった。は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	生活したり 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 1	個別に関わることによってきた。名 する6%の児童が別見られていりできた。名 ち86%の児童が別見られていりできた。 等応を起できた。 行うとともの改善がみら できることもの改善がみら 不登校・不登校傾向 下の中の大の中の大の中の大の大の中の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大のできた。	高和6年度SSRを利用した さへ行けるようになったや いる。また、SSRの利用ま 可定立とで寄り の理解についても の用童への理解についても のれた。 評価理由 別児童生徒がいまだ増加して のが整備され、スクーリング に寄り添い対応ができ、 である。 は、である。		
事業の	担当課評価 教育委員会点 必要性	<ul><li>・・</li><li>・・</li><li>・・</li><li>検・評価</li><li>切切切り</li><li>切りのである。</li><li>でてこてののである。</li></ul>	目標値 対傾向のある児童の学校復帰で学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わ きかけた。合わせて、学 (1次評価) 評価理由 登校・不登校傾向児童生徒が SRがどの学校にもあること、 されていることは、不登校未然 されていることは、不登校未然 でいることは、不登校大気 になるスクーリングケ	同に向けた改善 の数室復帰 のせて、思いに寄り添い ででである。 ででである。 ででである。 がのである。 のにくい見童にとっている。 のにくい見童にとっている。 のにくいり、自分のペース	いいののでは、事業の方向のは、	団の内のはなった。神気を持ち、はなった。はなった。は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	生活したり 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 1	個別に関わることによってきた。名 する6%の児童が別見られていりできた。名 ち86%の児童が別見られていりできた。 等応を起できた。 行うとともの改善がみら できることもの改善がみら 不登校・不登校傾向 下の中の大の中の大の中の大の大の中の大の大の大の大の大の大の大の大の大の大のできた。	高和6年度SSRを利用した さへ行けるようになったやいる。また、SSRの利用まである。また、SSRの利用までであり、 可定立て名にも教室であり、 の理解についてもいった。 である。 の理解についてもいった。 である。 の理解についてもいった。 である。 のである。		
事業	担当課評価 教育委員会点 必要性	<ul><li>・・</li><li>・・</li><li>・・</li><li>検・評価</li><li>切切切り</li><li>切りのである。</li><li>でてこてののである。</li></ul>	目標値 対傾向のある児童の学校復帰で学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わきかけた。合わせて、学 (1次評価) 評価理由 一登校・不登校傾向児童生徒がいることは、不登校にもあることがであることは、不登校にもあることができるスクーリングケスをでいることは、不登を未然らいていることは、不登校未然らいた。	同に向けた改善 の数室復帰 のせて、思いに寄り添い ででである。 でででである。 でででである。 でである。 のにくい見童にとっている。 のにくい見童にとっている。 のにくい見っから、 のにくいのである。	いいのの場合では、事業の方のでは、	団市前で添 中児りなた 中児りなた 神 長復 東 東 明 東 東 東 東 明 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東 東	世 1935 1935 1935 1935 1935 1935 1935 1935	個別に関わることによってきた。名のできた。名ののできた。名ののできかの児童が見られてなりできたができた。名のできたができた。名のできたができた。のできたができた。 一方のできたができた。名のできないできた。名のできたができた。名のできたができた。名のできた。名のできた。名のできたができた。 一方のできたができた。名のできたがのできたがいる。名のできたがのできた。名のでは、名のできた。名のできたが、これなり、これないのできた。名のできたが、これないのできた。名のできた。。名のできた。。	高和6年度SSRを利用した さへ行けるようになったやいる。また、SSRの利用まである。また、SSRの利用までである。 可見童への理解についてもいれた。 評価理由 別児童生徒がいまだ増加しておいが整備され、スクーリングを発されていることは、不可能である。 別に寄り添い対応ができ、できるスクーリングケアサポートである。		
事業の	担当課評価 教育委員会点 必要性	・・     ・・       ・・     ・・       検・価     切       切     切       すてこで有       でこて有	目標値 対傾向のある児童の学校復帰で学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わきかけた。合わせて、学 (1次評価) 評価理由 一登校・不登校傾向児童生徒がいることは、不登校にもあることがであることは、不登校にもあることができるスクーリングケスをでいることは、不登を未然らいていることは、不登校未然らいた。	同けた改善 別教室復帰 かせて、思いに寄り添い ででである。 ででである。 ででである。 ででである。 でである。 でである。 でである。 でではいのである。 でである。 でである。 でである。 ででのでする。 ででである。 ででのでする。 でである。 ででのでする。 ででのできる。 ででのできる。 でででででする。 ででのできる。 ででででする。 ででででする。 ででのできる。 ででででする。 ででででする。 ででででする。 ででででする。 ででででする。 ででででする。 ででででする。 ででででする。 ででででする。 でででででする。 ででででする。 ででできる。 ででででできる。 ででできる。 ででできる。 ででででできる。 でででででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 ででできる。 でででできる。 ででででできる。 ででででできる。 ででででできる。 でででででででできる。 ででででででできる。 でででででででででででできる。 でででででででででできる。 でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	いいののでは、事業の方向のは、	団の内のはなった。神気を持ち、はなった。はなった。は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	世 1935 1935 1935 1935 1935 1935 1935 1935	個別に関わることによってきた。名のできた。名ののできた。名ののできかの児童が見られてなりできたができた。名のできたができた。名のできたができた。のできたができた。 一方のできたができた。名のできないできた。名のできたができた。名のできたができた。名のできた。名のできた。名のできたができた。 一方のできたができた。名のできたがのできたがいる。名のできたがのできた。名のでは、名のできた。名のできたが、これなり、これないのできた。名のできたが、これないのできた。名のできた。。名のできた。。	高和6年度SSRを利用した さへ行けるようになったやいる。また、SSRの利用まである。また、SSRの利用までであり、 可定立て名にも教室であり、 の理解についてもいった。 である。 の理解についてもいった。 である。 の理解についてもいった。 である。 のである。		
事業の	担当課評価 教育委員会点 必要性	・・     検証       不別     本の       本の     本の       本の <td>目標値 対傾向のある児童の学校復帰で学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わせて、学 の対けた。合わせて、学 (1次評価) 評価理由 一登校・不登校傾向児童生徒が いっていることは、不登校にもあることが大きらえるスクーリング大きができるスクーリングを表した。 まざまな理由により教室に入ります。 まざまな理由によりの児童が教室に入ります。 まざまな理由によりの児童が教室に入ります。 まずまな理由によりの児童が教室に入ります。</td> <td>同けた改善の数字を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の表示を使用しているでは、思いについでである。これでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、ないに、ないでは、ないに、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは</td> <td>いいののでは、事業の方向のは、</td> <td>団市前で添 中児りなた 中児りなた 神 長復 東 東 明 東 東 東 明 明 り 東 明 り り り り り り り り り</td> <td>世 1935 1935 1935 1935 1935 1935 1935 1935</td> <td>個別に関わることによってきた。名のできた。名ののできた。名ののできかの児童が見られてなりできたができた。名のできたができた。名のできたができた。のできたができた。 一方のできたができた。名のできないできた。名のできたができた。名のできたができた。名のできた。名のできた。名のできたができた。 一方のできたができた。名のできたがのできたがいる。名のできたがのできた。名のでは、名のできた。名のできたが、これなり、これないのできた。名のできたが、これないのできた。名のできた。。名のできた。。</td> <td>高和6年度SSRを利用した さへ行けるようになったやいる。また、SSRの利用まである。また、SSRの利用までである。 可見童への理解についてもいれた。 評価理由 別児童生徒がいまだ増加しておいが整備され、スクーリングを発されていることは、不可能である。 別に寄り添い対応ができ、できるスクーリングケアサポートである。</td>	目標値 対傾向のある児童の学校復帰で学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わせて、学 の対けた。合わせて、学 (1次評価) 評価理由 一登校・不登校傾向児童生徒が いっていることは、不登校にもあることが大きらえるスクーリング大きができるスクーリングを表した。 まざまな理由により教室に入ります。 まざまな理由によりの児童が教室に入ります。 まざまな理由によりの児童が教室に入ります。 まずまな理由によりの児童が教室に入ります。	同けた改善の数字を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の表示を使用しているでは、思いについでである。これでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、ないに、ないでは、ないに、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは	いいののでは、事業の方向のは、	団市前で添 中児りなた 中児りなた 神 長復 東 東 明 東 東 東 明 明 り 東 明 り り り り り り り り り	世 1935 1935 1935 1935 1935 1935 1935 1935	個別に関わることによってきた。名のできた。名ののできた。名ののできかの児童が見られてなりできたができた。名のできたができた。名のできたができた。のできたができた。 一方のできたができた。名のできないできた。名のできたができた。名のできたができた。名のできた。名のできた。名のできたができた。 一方のできたができた。名のできたがのできたがいる。名のできたがのできた。名のでは、名のできた。名のできたが、これなり、これないのできた。名のできたが、これないのできた。名のできた。。名のできた。。	高和6年度SSRを利用した さへ行けるようになったやいる。また、SSRの利用まである。また、SSRの利用までである。 可見童への理解についてもいれた。 評価理由 別児童生徒がいまだ増加しておいが整備され、スクーリングを発されていることは、不可能である。 別に寄り添い対応ができ、できるスクーリングケアサポートである。		
事業の	担当課評価 教育委員会点 必要性	・・     検押     適       ・・     ・評価     不Sれさる。さてこで有一名8た	目標値 対傾向のある児童の学校復帰 で学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わせて、学 のかけた。合わせて、学 (1次評価) 評価理由 一を受校にもあることががられていることは、不登校にもらえるスクーリをもらえるスクーリングである。 まざまな理由により教室に入りませたができ、心の安心・安定に入りである。 まざまな理由により教室に入りないででき、心の安心・安定に不登があり、かの安心・安定に不登がある。 には、のの場合である。 のののである。 のののである。 のののである。 ののののである。 ののののである。 ののののである。 ののののである。 ののののである。 ののののである。	同けた改善の数字を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の表示を使用しているでは、思いについでである。これでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、ないに、ないでは、ないに、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは	いいののでは、事業の方向のは、	団市前で添 中児りなた 中児りなた 神 長復 東 東 明 東 東 東 明 明 り 東 明 り り り り り り り り り	世 1935 1935 1935 1935 1935 1935 1935 1935	個別に関わることによってきた。名のできた。名ののできた。名ののできかの児童が見られてなりできたができた。名のできたができた。名のできたができた。のできたができた。 一方のできたができた。名のできないできた。名のできたができた。名のできたができた。名のできた。名のできた。名のできたができた。 一方のできたができた。名のできたがのできたがいる。名のできたがのできた。名のでは、名のできた。名のできたが、これなり、これないのできた。名のできたが、これないのできた。名のできた。。名のできた。。	高和6年度SSRを利用した さへ行けるようになったやいる。また、SSRの利用までである。また、SSRの利用までである。 可見童への理解についてもいれた。 評価理由 別児童生徒がいまだ増加しておいが整備され、スクーリンのできれていることは、不可能である。 別に寄り添い対応ができれることは、不可能である。		
事業の	担当課評価 教育委員会	・・     検証       不別     本の       本の     本の       本の <td>目標値 対傾向のある児童の学校復帰 で学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わせて、学 のかけた。合わせて、学 (1次評価) 評価理由 一を受校にもあることががられていることは、不登校にもらえるスクーリをもらえるスクーリングである。 まざまな理由により教室に入りませたができ、心の安心・安定に入りである。 まざまな理由により教室に入りないででき、心の安心・安定に不登があり、かの安心・安定に不登がある。 には、のの場合である。 のののである。 のののである。 のののである。 ののののである。 ののののである。 ののののである。 ののののである。 ののののである。 ののののである。</td> <td>同けた改善の数字を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の表示を使用しているでは、思いについでである。これでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、ないに、ないでは、ないに、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは</td> <td>いいののでは、事業の方向のは、</td> <td>団市前で添 中児りなた 中児りなた 神 長復 東 東 明 東 東 東 明 明 り 東 明 り り り り り り り り り</td> <td>世 1935 1935 1935 1935 1935 1935 1935 1935</td> <td>個別に関わることによってきた。名のできた。名ののできた。名ののできかの児童が見られてなりできたができた。名のできたができた。名のできたができた。のできたができた。 一方のできたができた。名のできないできた。名のできたができた。名のできたができた。名のできた。名のできた。名のできたができた。 一方のできたができた。名のできたがのできたがいる。名のできたがのできた。名のでは、名のできた。名のできたが、これなり、これないのできた。名のできたが、これないのできた。名のできた。。名のできた。。</td> <td>高和6年度SSRを利用した さへ行けるようになったやいる。また、SSRの利用までである。また、SSRの利用までである。 可見童への理解についてもいれた。 評価理由 別児童生徒がいまだ増加しておいが整備され、スクーリンのできれていることは、不可能である。 別に寄り添い対応ができれることは、不可能である。</td>	目標値 対傾向のある児童の学校復帰 で学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わせて、学 のかけた。合わせて、学 (1次評価) 評価理由 一を受校にもあることががられていることは、不登校にもらえるスクーリをもらえるスクーリングである。 まざまな理由により教室に入りませたができ、心の安心・安定に入りである。 まざまな理由により教室に入りないででき、心の安心・安定に不登があり、かの安心・安定に不登がある。 には、のの場合である。 のののである。 のののである。 のののである。 ののののである。 ののののである。 ののののである。 ののののである。 ののののである。 ののののである。	同けた改善の数字を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の表示を使用しているでは、思いについでである。これでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、ないに、ないでは、ないに、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは	いいののでは、事業の方向のは、	団市前で添 中児りなた 中児りなた 神 長復 東 東 明 東 東 東 明 明 り 東 明 り り り り り り り り り	世 1935 1935 1935 1935 1935 1935 1935 1935	個別に関わることによってきた。名のできた。名ののできた。名ののできかの児童が見られてなりできたができた。名のできたができた。名のできたができた。のできたができた。 一方のできたができた。名のできないできた。名のできたができた。名のできたができた。名のできた。名のできた。名のできたができた。 一方のできたができた。名のできたがのできたがいる。名のできたがのできた。名のでは、名のできた。名のできたが、これなり、これないのできた。名のできたが、これないのできた。名のできた。。名のできた。。	高和6年度SSRを利用した さへ行けるようになったやいる。また、SSRの利用までである。また、SSRの利用までである。 可見童への理解についてもいれた。 評価理由 別児童生徒がいまだ増加しておいが整備され、スクーリンのできれていることは、不可能である。 別に寄り添い対応ができれることは、不可能である。		
事業の	担当課評価 教育委員会	・・     検押     適       ・・     ・評価     不Sれさる。さてこで有一名8た	目標値 対傾向のある児童の学校復帰 で学習等を行っている児童の 児童の特性や実態に合わせて、学 のかけた。合わせて、学 (1次評価) 評価理由 一を受校にもあることががられていることは、不登校にもらえるスクーリをもらえるスクーリングである。 まざまな理由により教室に入りませたができ、心の安心・安定に入りである。 まざまな理由により教室に入りないででき、心の安心・安定に不登があり、かの安心・安定に不登がある。 には、のの場合である。 のののである。 のののである。 のののである。 ののののである。 ののののである。 ののののである。 ののののである。 ののののである。 ののののである。	同けた改善の数字を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の対象を使用の表示を使用しているでは、思いについでである。これでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、というでは、ないに、ないでは、ないに、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは	いいののでは、事業の方向のは、	団市前で添     支援       丁支援     事       中児りなた     価       大援     事       大場     よ       大り     よ	世 1930 1930 1930 1930 1930 1930 1930 1930	個別に関わることによってきた。名のできた。名ののできた。名ののできかの児見られてなりのできたができた。名のできたができた。名のできたができた。のできたができた。 一方のできたができた。名のできないできた。名のできたができた。名のできたができた。名のできた。名のできた。名のできたができた。 一方のできたができた。名のできたがのできた。名のできたがのできた。名のできたがのできた。名のできたができた。名のできたが、これないのできた。名のできたが、これないできた。名のできた。このできた。このできた。名のできた。名のできた。名のできた。名のできた。名のできた。名のできた。名のできた。名のできた。このできた。。このできた	高和6年度SSRを利用した され行けるようになったや いる。また、SSRの利用ま いる。また、SSRの利用ま である。 では の理解についても の理解についても の理解についることは、不 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。		

	教育委員会点検・評価(2次評価)
評価	評価理由
Α	全小学校にスペシャルサポートルーム(以下、SSR)を設置し、スクールリングケアサポーター(以下、SKS)を配置することは、明日もIKOKA(行こうか)プラン2025の I (居場所がある)が示す通り、教室に入りにくい児童に個々に関わることができ、86%の児童が教室復帰や改善傾向が見られたことは評価できる。改善傾向が見られた等で行った支援の検証を通して支援体制のモデルを示し、全体で共有を行ったうえで、不登校の未然防止に努めてほしい。また、SSRを利用する児童の様子を丁寧に記録し、担任、学校全体で共有するとともに、児童のがんばりを適切に評価し、児童や保護者に丁寧に説明することもお願いしたい。SSRの利用が高まる中、SKSの人材確保が厳しい状況ではあるが、教員免許を取得している人材を登用してさらなる支援の質の向上と配置人数、時間数の増大を考えてもらいたい。

	教育行政評価委員点検・評価(最終評価)
評価	評価理由
A	不登校の未然防止対策として、各小学校にスペシャルサポートルーム(SSR)を設置し多様な学びを推進する体制を整え、19校にスクーリングケアサポーター51名を派遣し、多くの児童に関わったことで「話ができる」「話を聞いてもらえる」という児童の「心の居場所」ができたことやSSRを利用する児童の86%が教室復帰をしたこと、中学校に進学して不登校になる大きな要因の一つである学力不足の問題に対しSSRで支援を充実させていること、併せて集団不適応の傾向が見受けられる児童にも早期に対応していることは、高く評価できる。一方で、学校復帰のみにとらわれることなく、児童の社会的自立を目指して、その特性に応じた学びの多様性を認めることに重点を置くことにも配慮しつつ、より一層児童一人ひとりに寄り添った丁寧な対応が必要であるため、スクーリングケアサポーターの確保とスキルの向上に努められたい。併せて、本事業の更なる充実を図るには、担任とスクーリングケアサポーターとの連携を深め、ケース会議を経た上で支援を進めていく必要があり、これを行う時間を確保し、SSRが児童にとってより心地のよい居場所となることを期待する。さらには、かつて教職についていた方や教育現場で子供に寄り添う経験がある方がスクーリングケアサポーターとして採用されることを期待する。また、家庭から出られない子ども達への支援や家庭環境改善に向けたアウトリーチ型の家庭支援を実施する他部局との連携の充実が望まれる。

### 教育行政評価委員点検・評価結果を踏まえての教育委員会の今後の取り組み(具体的方策)等について

全小学校にスペシャルサポートルーム(以下、SSR)を設置し、スクーリングケアサポーター(以下、SCS)を配置することにより、教室に入りにくい児童に個々に寄り添い関わることで多くの児童が教室復帰や改善傾向が見られたことは大きな成果であり、併せてSSRを利用するまでには至っていないが集団不適応の傾向が見受けられる児童にもSCSが早期に対応できていることは不登校の未然防止につながっていることから、引き続き取組を進めていく。今後も、児童一人ひとりの状況に寄り添った丁寧な対応ができるように、SCSの人員確保とスキルの向上、また、担任との連携を密にした支援が行えるような情報共有の時間の確保等に努め、SSRが児童にとってより心地のよい居場所となるに本事業を進めていく。あわせて、家庭から出れない児童への支援については、個の状況に応じた支援ができるように他部局と連携しながら取り組んでいきたい。

	事業名	ふるさ	で を 中賀地域学習推進事業(小学校)、(H:	129まで中	事業特	寺色ある学校	交づくり推	進事業(小学校))		
			教育委員会事務局 学校教育課		執行	·····································				
		コード			17415		コード		名称	
	() 07					会計	01	一般会計		
総	分野	18	学校教育·青少年	予	,  -	款 項	10 02	教育費 小学校費		
総合計				算 科	ļ <u> </u>		02	教育振興費		
画	施策	1	学校教育の充実		7	大事業 中事業	01 07	小学校教育振興事 特色ある学校づく		
					J.	小事業	01	ふるさと甲賀地域	学習推進事業(小学校)	
教育	#L ( ) @2	コード			2	<u>令和</u> 年度 総計		予算額 1,527	決算額 1,222	
振	教育分野	В	学校教育・青少年の健全育成 	財	t	国庫支出金				
興 基 本	教育施策の柱 (大区分)	(1)	学校教育の充実	内訳	<u> </u>	県費支出金 地方債	Ž			
計画	教育施策 (中区分)	7	地域学の推進と特色ある学校づくり		そ	の他特定財 一般財源	掠	1,527	1,222	
	法令等根拠							.,,,,,	1 / 100 100 100	
	個別計画等									
	事業概要	かなこる ※小学 ※令和:	交が、お茶や陶器、ケンケト踊りなど甲ころ」を目指し、生きる力、甲賀市への交がつくる事業計画書に基づき、当初予3年度から、小学校が地域の特色や伝統4年度・・・小学校18校 令和5年	D郷土愛の 予算編成時 充に基づき	で う う い う い り い り い り い り い り い り り り り り	を図る。 年度学校に	こヒアリン ンた事業の	ッグし精査している。	。 学校18校	
		(1)対	対象・・・・・誰に(何に)							
		(2) 泪	動内容・・・・・どのようなことを行うの 行動計画	つか	実績					
	事業の目的等	川の学習	5統に基づいて、陶器の学習やボランティア 習等、学校独自の様々な事業を展開し、「確 なこころ」を目指し、生きる力の育成を図る	堂かな学力						
	的 等	(3) 其	時できる効果・成果・・・・成果目標・ 	期待する	する成果					
		ど甲賀市で、生産の で、生産の 全国総で、 して、調	目標値 が特色や伝統に基づいて、お茶、陶器、ケ の特色や伝統の中から、学校独自の事業を る力、甲賀市への郷土愛を育成できる。 の・学習状況調査 児童生徒質問紙 のな学習の時間では、自分で課題を立てて情 がたことを発表するなどの学習活動に取り 小学校・中学校ともに70%以上	を展開する 情報を集め	開すること 地域性を考慮し、創意工夫をこらした活動に取り組むことができた 土山小学校において、第34回生活科・総合的な学習の教育研究協会を開催し、小学校・中学校をつなぐ地域学習のカリキュラム編成行うことができた。また、児童・生徒が地域の発展について考える を集め整理 とができた。					
		評価	<b>闌</b>			評価のヨ	理由			
	担当課評価	A	各校、教育目標の達成に向けて実態や とができた。	や地域性、	特色	を生かし、『	甲賀市に特	化した事業等につい	て工夫しながら学習を行うこ	
	教育委員会	点検・評価	(1次評価) 評価理由			項目	判断		評価理由 校再編計画に関する答申に	
		対 さ	評価理田 也域学習は、様々な教科・領域における内容をも含んだ発展性のある学習であるため、「 学力」「豊かなこころ」を目指し、生きるた 図ることができる。また、第二次甲賀市J	「確かな りの育成 小中学校		事業規模	拡充	基づき、小中一貫教	校母編訂画に関する音中に で育を行っていくにあたり、 ではなく、中学校も行ってい	
	必要性	適切を表した。	国のではあるできる。 はん、オーバー質にない 国編計画に関する答申に基づき、より地域に こ小中一貫教育を実現するにはより地域学を 図る必要がある。							
事業の評価		適切 意切 適切	F編計画に関する答申に基づき、より地域に E小中一貫教育を実現するにはより地域学を	を充実を ことで、 ュラム編 ュラムを	事業の方向性			けでなく中学校もよ 必要があり、これま ていた別々のカリキ	ていくにあたり、小学校だり地域学に取り組んでいくで小学校・中学校が実施しょうムを1つにまとめ、新作成しなければならないた	
の 評		適適 適 適 切 切 切 切 切 切 切 切 切 切 切 切 切 切 切 切	写編計画に関する答申に基づき、より地域に こ小中一貫教育を実現するにはより地域学を 図る必要がある。 それぞれの学校で特色ある地域学習を行うこれ学校・中学校をつなぐ地域学習のカリキュ なを行うことができる。また、そのカリキュ らとに、児童・生徒が地域に愛着をもち、地	を た た た た う う 対 が で に う う 対 の で こ で の で こ で の で こ で の で こ で の で の で の に 。 に 。	業の方向		抜本的改善	けでなく中学校もよ 必要があり、これま ていた別々のカリキ たなカリキュラムを	り地域学に取り組んでいくで小学校・中学校が実施しる コラムを1つにまとめ、新作成しなければならないた	

	教育委員会点検・評価(2次評価)							
評価	評価理由							
В	総合的な学習を中心に取り組んでいる地域学は、学校と地域が一体となって特産物や伝統工芸品、農産物について学び、ふるさとへの愛着を育んでいる。また、ふるさとへの愛着は、甲賀市教育目標「たくましい心身と郷土の誇りをもち、未来を切り拓く人を育てる」にも示されており、地域学に取り組むことは大変重要である。 全国学力・学習状況調査質問紙の「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」の項目で、小中学校とも目標値を達成しており評価できる一方、これからの社会において主体的で探究的な学びを高めることが必要である。また、小中一貫教育を推進するには、甲賀で学び・育ち、甲賀に還元する人材を育て、甲賀の将来を考える視点が重要であり、小中9年間を通して地域学を柱とした総合的な学習のカリキュラムの編成を行い、さらなる充実を図っていただきたい。							

# 教育行政評価委員点検・評価(最終評価) 各小学校が、特色ある学校づくりとして学校独自の事業を展開され、「たくましい心身と郷土の誇りを持 ち、未来を切り拓く人を育てる」の教育目標の具現化を目指し、ふるさとを愛する心を育む取り組みとし て、地域の特産品や特徴を教材化し、小学校から中学校に学びをつないでいく「地域学」は、市の教育方針 とも合致した取り組みであり、高く評価できる。また、学校と地域を一体として展開する探求的な学びを充 実させ、各校独自の特色ある学びを展開することで、生きる力を育み、愛着を持つ地域の未来について考え 【る人材を育成する総合的な学習の取り組みも併せて評価したい。また、土山地区において総合的な学習の時 間にかかる教育研究協議会を開催し、小学校、中学校を繋ぐ地域学習のカリキュラム編成(土山地区での特 色マップ作りなど)を実施できたことや学び方の評価として、数値目標の70%を小学校、中学校ともに超 えたことも高く評価できる。特に中学校において令和5年度の結果から大きく向上したことは、令和6年度 の取り組みの成果であると考える。 一方、小学校区と中学校区はその範囲や地域素材、地域課題も違う中で、児童生徒が興味を感じる地域の 教材とうまくマッチングできるように進めることも視野に入れたい。 また、各児童が地域に誇りと自信を持てるよう各中学校区の小学生が一堂に会し(あるいは中学校に入学 して最初に)学習発表会のような催しを行うなど、児童、生徒が地域学に一層興味を持つ仕組みづくりを検 討されたい。さらには小中一貫教育として、中学校でのゴールの設定も念頭に置き、系統的に学んでいける ように小中の共通した地域学の検討と取り組みが充実されることを期待する。

### 教育行政評価委員点検・評価結果を踏まえての教育委員会の今後の取り組み(具体的方策)等について

これまで総合的な学習を中心に取り組んできた地域学は、甲賀市教育目標に「たくましい心身と郷土の誇りをもち、未来を切り拓く人を育てる」とある通り、大変重要なものであり、さらなる充実が求められる。今後、第二次甲賀市小中学校再編計画に関する答申に基づいて小中一貫教育を行っていくにあたり、各中学校区で「小中一貫教育推進会議」を立ち上げ、その中で地域学を柱とした総合的な学習の時間のカリキュラムの編成を行う。小中一貫教育として、中学校でのゴールの設定を念頭に置きながら、これまでの甲賀市の教育の中で蓄積されてきた地域学の成果を整理し、小学校・中学校9年間の学びを系統的につないでいくことができる総合的な学習の時間のカリキュラムを検討していきたい。

また、今年度検討し作成した総合的な学習の時間のカリキュラムをもとに、次年度より部分的に授業を実施し、さらなる検討と改善を行っていきたい。あわせて、全国学力・学習状況調査質問紙の「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」の数値の向上も目指し、本事業のさらなる充実を図っていきたい。

	事業名	社会教育	育コーディネーター設置事業 (生涯学	智推進事業)					
	担当課室名		社会教育スポーツ課		執行	f方法		直営	
		コード					L コード		
総合	分野	7	生涯学習・文化・スポーツ		,	会計款項	01 10 05	一般会計 教育費 社会教育費	
総合計画	施策	1	生涯学習環境の充実			日	01 05 01 01	社会教育総務費 生涯学習推進事業 生涯学習推進事業 生涯学習推進事業	
<b></b>		コード	名称			令和6年度		予算額	決算額
有辰	教育分野	С	生涯学習・文化・スポーツ			総計		21,169,000	14,749,983
区 RE	教育力封	C	土涯子首・文化・スパーク		†	国庫支出金	Ì	0	0
興 基 本	教育施策の柱 (大区分)	(1)	生涯学習環境の充実	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		県費支出金 地方債		0	0
† <u>=</u>	教育施策 (中区分)	1	いつでも、どこでも、だれでも学び 生涯学習環境の充実	あえる	7	の他特定則 一般財源		0 21,169,000	0 14,749,983
	法令等根拠	社会教育	育法 第3条、第5条						
	個別計画等 事業概要	子ども 地域学校 社会教育	教育振興基本計画(後期計画)、滋賀の会・子育て応援団支援事業計画 協働活動を行うため、プログラム コーディネーター(社会教育指導員学習推進のため、事業の実施や情	∆を継続的・定 員)を設置し、	E期的 学校。	に実施する	るのに必要	要な企画立案や話しる	いの場を調整する。
事業の目的		(1)対象・・・・誰に(何に)市民対象  (2)活動内容・・・・どのようなことを行うのか 行動計画 実績 社会教育統括指導員と社会教育指導員を配置し、地域学校協働活動推進員会議に参加し、各地が動推進員との連絡調整や社会教育統括指導員と社会教育指導員とで情報の共有化のため連絡会の実施。 夢の学習(公民館)事業に対して、委託契約の仕様書を元に講座内容、成果と課題を分析する。							
	業 の 目	動推進員ので情報の対 夢の学習(	統括指導員と社会教育指導員を配置し との連絡調整や社会教育統括指導員と 共有化のため連絡会の実施。 (公民館)事業に対して、委託契約の仕	社会教育指導員	員と	協働活動技 委託してい	推進本部で Nる夢の学	域学校協働活動推進員 の実態、課題を把握し 習(公民館)事業の内容	、支援を行った。 を社会教育統括指導員とれ
	業 の 目 的	動推進員ので情報の対 夢の学習(容、成果の	統括指導員と社会教育指導員を配置し との連絡調整や社会教育統括指導員と 共有化のため連絡会の実施。 (公民館)事業に対して、委託契約の仕	社会教育指導員様書を元に講座	員と 体内	協働活動技 委託してい	推進本部で Nる夢の学	域学校協働活動推進員 の実態、課題を把握し 習(公民館)事業の内容	、支援を行った。 を社会教育統括指導員と社
	業 の 目 的	動推進員。で情報の対 夢の学習(容、成果の (3)期行 地域学校に 夢の学習(	統括指導員と社会教育指導員を配置し との連絡調整や社会教育統括指導員と 共有化のため連絡会の実施。 (公民館)事業に対して、委託契約の仕 と課題を分析する。 特できる効果・成果・・・・成果目	社会教育指導員 様書を元に講座 標・期待する原 る。 様書を精査し、	受力を対象を表現しています。	協働活動打 委託してい 会教育指導 地域のの学習( を) を) を) を) を) を) を) を) を) を) を) を) を)	推進本部で いる夢の学 う う う と 定期 の の 学 の 学 の 学 の 学 の 学 の 会 の で あ い る の く の の の の の の の の の の の の の の の の の	域学校協働活動推進員の実態、課題を把握し習(公民館)事業の内容であた協議(7回)を行った を行った を行った を行った を行った を行った 実績値 令和7年度14校で実 業に対して、委託契約の	、支援を行った。 を社会教育統括指導員と社 さ。 施できる見込みとなった。
	業 の 目 的	動推進員。で情報の対 夢の学習(容、成果の (3)期行 地域学校に 夢の学習(	統括指導員と社会教育指導員を配置し との連絡調整や社会教育統括指導員と 共有化のため連絡会の実施。 (公民館)事業に対して、委託契約の仕る と課題を分析する。 特できる効果・成果・・・・成果目 目標値 協働本部を令和7年度17校で実施す (公民館)事業に対して、委託契約の仕る 仕様書を令和6年度の仕様書と変更す	社会教育指導員 様書を元に講座 標・期待する原 る。 様書を精査し、	受力を対象を表現しています。	協働活動打 委託してい 会教育指導 地域のの学習( を) を) を) を) を) を) を) を) を) を) を) を) を)	推進本部で 1る夢の学 高働本部の学 公民館の 公書は、材 6年度の仕	域学校協働活動推進員の実態、課題を把握し習(公民館)事業の内容的に協議(7回)を行った 実績値 令和7年度14校で実 業に対して、委託契約の 料費等の実費徴収(中学	、支援を行った。 を社会教育統括指導員と社会。 施できる見込みとなった。 の仕様書を精査し、令和で
	業 の 目 的	動推進員ので情報の対象の成果のでは、 (3)期ででは、 (3)期ででは、 (3)期ででは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	統括指導員と社会教育指導員を配置し との連絡調整や社会教育統括指導員と 共有化のため連絡会の実施。 (公民館)事業に対して、委託契約の仕る と課題を分析する。 特できる効果・成果・・・・成果目 目標値 協働本部を令和7年度17校で実施す (公民館)事業に対して、委託契約の仕る 仕様書を令和6年度の仕様書と変更す	社会教育指導 様書を元に講座 標・期待する所 る。 様書を精査し、 る。 を精査し、 会教育統括指導 氏式の で表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	員 内 成果 令和 員員が、	協・大学を持ち、おおから、おおから、おおから、おおから、おおから、おおから、おおから、おおか	選集 本部の学生 は 本部の学 は 本部の学 は 本部の 大部の 大部の 大部の 大部の 大部の 大部の 大部の 大部の 大部の 大	域学校協働活動推進員の実態、課題を把握し習(公民館)事業の内容的に協議(7回)を行った 実績値 マーク でまる では でまる できます できます できます できます できます できます できます できます	、支援を行った。 を社会教育統括指導員と社会。 施できる見込みとなった。 の仕様書を精査し、令和7 生以下は、無償)を明記 で、各校の地域学校協働? が各地域の連絡調整指導?
	業の目的等	動推進報のである。 (3)期後である。 (3)期後では、 (3)期後では、 (3)期後では、 (3)期後では、 (3)のでは、 (3)のでは、 (3)のでは、 (3)のでは、 (3)のでは、 (3)のでは、 (4)のでは、 (4)ので	統括指導員と社会教育指導員を配置し との連絡調整や社会教育統括指導員と 共有化のため連絡会の実施。 (公民館)事業に対して、委託契約の仕 と課題を分析する。 特できる効果・成果・・・・成果目 目標値 協働本部を令和7年度17校で実施す (公民館)事業に対して、委託契約の仕 仕様書を令和6年度の仕様書と変更す 社会教育の振興を図るために社会 動本部の立ち上げや運営に対し、 行う体制が出来た。夢の学習(公 実施出来るように事前の下見等に	社会教育指導 様書を元に講座 標・期待する所 る。 様書を精査し、 る。 を精査し、 会教育統括指導 氏式の で表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表表	員 内 成果 令和 員員が、	協委会地夢年し地夢年し、神経の度、神経の度、神経の度、神経を受ける。 かい と は きんしん こく	進進本部の学 協会と定 部の学 のので のので のので のので のので のので のので の	域学校協働活動推進員の実態、課題を把握し習(公民館)事業の内容ででは協議(7回)を行った 実績値 ついて では でまる では でまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる できまる	、支援を行った。 を社会教育統括指導員と社会 を社会教育統括指導員と社会。 施できる見込みとなった。 の仕様書を精査し、令和可 企生以下は、無償)を明記 で、各校の地域学校協働。 が各地域の連絡調整指導 ている事業について安全
	業の目的等	動推進報のである。 (3)期行 (	統括指導員と社会教育指導員を配置したの連絡調整や社会教育統括指導員と共有化のため連絡会の実施。 (公民館)事業に対して、委託契約の仕ると課題を分析する。 特できる効果・成果・・・・成果目目標値 協働本部を令和7年度17校で実施す(公民館)事業に対して、委託契約の仕ばまを令和6年度の仕様書と変更すせ様書を令和6年度の仕様書と変更するために対し、行う体制が出来た。夢の学習(公実施出来るように事前の下見等に12次評価)	社会教育指導 様書を元に講座 標・期待する所 る。 様書を精査し、 る。 を精査し、 会教育統括指導 氏式の でである。	員 内 成果 令和 員員が、	協・大学を持ち、おおから、おおから、おおから、おおから、おおから、おおから、おおから、おおか	選集 本部の学生 は 本部の学 は 本部の学 は 本部の 大部の 大部の 大部の 大部の 大部の 大部の 大部の 大部の 大部の 大	域学校協働活動推進員の実態、課題を把握し習(公民館)事業の内容ででは協議(7回)を行ったでは協議(7回)を行ったでは協議(7回)を行ったでは協議(7回)を行ったの料費を変更した。	、支援を行った。 を社会教育統括指導員と社会 を社会教育統括指導員と社会。 施できる見込みとなった。 の仕様書を精査し、令和 が生以下は、無償)を明記 で、各校の地域学校協働。 が各地域の連絡調整指導 ている事業について安全
	業の目的等 割割	動でである。  動性を関する  である。  である。  である。  である。  はは、いまする。  はは、いまする。  はないまする。  はないまする。はないまする。 はないまするはないまする。 はないまする。 はないまするないまするないまするないまするないまするないまするないまするないまないまするないまする	統括指導員と社会教育指導員を配置し との連絡調整や社会教育統括指導員と 共有化のため連絡会の実施。 (公民館)事業に対して、委託契約の仕 と課題を分析する。 特できる効果・成果・・・・成果目 目標値 協働本部を令和7年度17校で実施す (公民館)事業に対して、委託契約の仕 仕様書を令和6年度の仕様書と変更す 社会教育の振興を図るために社会 動本部の立ち上げや運営に対し、 行う体制が出来た。夢の学習(公 実施出来るように事前の下見等に	社会教育指導 様書を元に講座 標・期待する 高。 を精査し、 合。 会教育統括指指の 会教育教業に会教 ここいて社会教	員 内 成果 令和 員員が、	協委会地夢年し地夢年し、神経の度、神経の度、神経の度、神経を受ける。 かい と は きんしん こく	進進の は進夢と はは夢と ないままの ののは、のの ののは、のの ののは、のの ののは、のの のので のので のので のので のので のので のので	域学校協働活動推進員の実態、課題を把握を2 図(公民館)事業の内容2 的に協議(7回)を行った 実績値 令和対して、委託収(中学 様書と変更した。 名を配置し、各町単位 に社会教育は範囲が広へ 業ではないので、市野	、支援を行った。 を社会教育統括指導員と社会 を社会教育統括指導員と社会。 施できる見込みとなった。 の仕様書を精査し、令和可 企生以下は、無償)を明記 で、各校の地域学校協働。 が各地域の連絡調整指導 ている事業について安全
事業の評価	業の目的等 教育委員会 必要性 有効性	動で夢容(3)地夢7 神傷の(3)地夢7 神傷の(3)が一般である。 (3)が一般である。 (4)が一般である。 (4)が一のである。 (4)が一のでからなる。 (4)がんのではなる。 (4)がのではなる。 (4)がのではなる。 (4)がのではなる。 (4)がのではなる。 (4)がのではなる。 (4)がのではなる。 (4)がのではなる。 (4)がのではなる。	統括指導員と社会教育指導員を配置し との連絡調整や社会教育統括指導員と 共有化のため連絡会の実施。 (公民館)事業に対して、委託契約の仕当 と課題を分析する。 特できる効果・成果・・・・成果目 目標値 協働本部を令和7年度17校で実施す (公民館)事業に対して、委託契約の仕当 仕様書を令和6年度の仕様書と変更す 社会教育の振興を図るために社会 動本部の立ち上げや運営に対し、 行う体制が出来た。夢の学習(公 実施出来るように事前の下見等に (1次評価) 評価理由 公民館に社会教育指導員を設置したこ	社会教育に講座 標・期待する 標・期待する でまる。 会教 社館 いて でまた。 と出 でまた。 が機能的に活	員 内 成果 令和 員員が、	協委会 地夢年し と走名員 事	世 は は は は 高 ら は の は の は は の の に の に の に に の に の に の に の に の に に に に に に に に に に に に に	域学校協課題を把内容が の実態、課題を行った。 (公民議) (7回) を行った。 実績値である。 実績値で表徴。 実はで表徴。 (本記収) 中学 (本記収) 中学 (本記収	、支援を行った。 を社会教育統括指導員と社会 を社会教育統括指導員と社会 を社会教育統括指導員と社会 施できる見込みとなった。 の仕様書を精査し、令和記 を生以下は、無償)を明記 で、各校の地域学校協働) で、各校の地域学校協働) で、各校の地域学校協働) でいる事業について安全 平価理由 く、教育委員会だけでの事 長部局(市民活動推進課等)
の評	業の目的等  担当  教育  女性  有効性	動で夢容 ( 地夢 7 神	統括指導員と社会教育指導員を配置したの連絡調整や社会教育統括指導員と共有化のため連絡会の実施。(公民館)事業に対して、委託契約の仕ると課題を分析する。  特できる効果・成果・・・成果目目標値  協働本部を令和7年度17校で実施す(公民館)事業に対して、委託契約の仕ば書を令和6年度の仕様書と変更すせ、会教育の振興を図るために対し、行うは出来るように事前の下見等には、行うにより、行うにより、市の社会教育指導員を設置したで、事業や地域学校協働活動を円滑に推進会教育統括指導員と社会教育指導員がすることにより、市の社会教育方針を	注	員 内 東 令 員員い育 事業の方向と 内 果 和 名件、導	協委会地夢年し、評社支民指動では、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して、対して	世 は は は は 高 ら は の は の は は の の に の に の に に の に の に の に の に の に に に に に に に に に に に に に	域学校協課題を把内容が の実態、課題を行った。 (公民議) (7回) を行った。 実績値である。 実績値で表徴。 実は表徴。 (本記収) 中学 (本記収)	、支援を行った。 を社会教育統括指導員と社会教育統括指導員と社会教育統括指導員と社会教育統括指導員と社会教育統括指導員となった。 施できる見込みとなった。 の仕様書をは、無償)を明記 で、各校の地域学校協働。 で、各校の地域学校協働。 で、各校の地域学校協働。 で、各地域の連絡のである。 で、各地域の連絡である。 で、各地域の連絡である。 で、各域の地域といての事業について安全 で、部局に対して取り組むように進 で、部局に対して取り組むように進 で、部員会だけでなく、地域である。 で、対象についてある。 で、部員会だけでなく、地域である。 で、対象には、対象には、対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対象に対
の評	業の目的等 教 必要性 有効率性 効率性	動で夢容     ( 地夢了       がけっち     ( 地夢了       ( 地夢了     ( 地夢了       ( 地夢了     ( 地夢了       ( ) 地夢了     ( ) 地夢の情       ( ) 地夢了     ( ) 神価       ( ) 神価     ( ) 神価 <t< td=""><td>統括指導員と社会教育指導員を配置したの連絡調整や社会教育統括指導員と社会教育統括指導員と共有化のため連絡会の実施。(公民館)事業に対して、委託契約の仕当と課題を分析する。  特できる効果・成果・・・・成果目目標値  協働本部を令和7年度17校で実施す(公民館)事業に対して、委託契約の仕当土様書を令和6年度の仕様書と変更すが出来。夢の学習(公実施出来るように事前の下見等に1次評価)  「1次評価)  「1次評価)  「2</td><td>注</td><td>員 内 東 令 員員い育 事業の方向と 内 果 和 名件、導</td><td>協委会 地夢年し きょく はの度、 評 社支公が 項 業 法法 学学の令 価 会援館導 国規 関係 では、 学学の会 の 教を館 単 の 大き の</td><td>世 (本) (a) (</td><td>域学校協課題を把内容が の実態、課題を行った。 (公民議) (7回) を行った。 実績値である。 実績値で表徴。 実は表徴。 (本記収) 中学 (本記収) 中学 (本記収)</td><td>、支援を行った。 を社会教育統括指導員と社会教育統括指導員と社会教育統括指導員と社会教育統括指導員となった。 施できる見込みとなった。 の仕様書をは、無償)を明記 で、各校の地域学校協働。で、各域の連絡である事業について安全 で、各域の地域学校協働。で、各域の連絡である事業について安全 で、各域の地域が関連を定めてある。 で、各域の地域が関連を定めている。 で、各域の地域が関連を定めている。 で、各域の地域が関連を定めている。 で、各域の地域が関連を定めている。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域ので、また。 で、会域ので、また。 で、会域ので、また。 で、ないで、また。 で、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ない</td></t<>	統括指導員と社会教育指導員を配置したの連絡調整や社会教育統括指導員と社会教育統括指導員と共有化のため連絡会の実施。(公民館)事業に対して、委託契約の仕当と課題を分析する。  特できる効果・成果・・・・成果目目標値  協働本部を令和7年度17校で実施す(公民館)事業に対して、委託契約の仕当土様書を令和6年度の仕様書と変更すが出来。夢の学習(公実施出来るように事前の下見等に1次評価)  「1次評価)  「1次評価)  「2	注	員 内 東 令 員員い育 事業の方向と 内 果 和 名件、導	協委会 地夢年し きょく はの度、 評 社支公が 項 業 法法 学学の令 価 会援館導 国規 関係 では、 学学の会 の 教を館 単 の 大き の	世 (本) (a) (	域学校協課題を把内容が の実態、課題を行った。 (公民議) (7回) を行った。 実績値である。 実績値で表徴。 実は表徴。 (本記収) 中学 (本記収)	、支援を行った。 を社会教育統括指導員と社会教育統括指導員と社会教育統括指導員と社会教育統括指導員となった。 施できる見込みとなった。 の仕様書をは、無償)を明記 で、各校の地域学校協働。で、各域の連絡である事業について安全 で、各域の地域学校協働。で、各域の連絡である事業について安全 で、各域の地域が関連を定めてある。 で、各域の地域が関連を定めている。 で、各域の地域が関連を定めている。 で、各域の地域が関連を定めている。 で、各域の地域が関連を定めている。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域の地域である。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域のでは、また。 で、会域ので、また。 で、会域ので、また。 で、会域ので、また。 で、ないで、また。 で、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ないで、ない

	教育委員会点検・評価(2次評価)								
評価	評価理由								
	「甲賀市社会教育ビジョン」に示されている『開かれ、つながる社会教育の実現』に向け、社会教育統括指導員と社会教育指導員を配置することで、学校と地域をつなぎ地域の実情にあった社会教育活動の推進が図られていることや夢の学習(公民館)事業に対して委託契約の仕様書の精査など進められたことは評価できる。								
	一方、仕様書に基づいた事業実施の確認や教育委員会以外の自治振興会やまちづくり協議会など地域を巻き 込んだ社会教育の実践に期待したい。								
В									

	教育行政評価委員点検・評価(最終評価)
	37131327011822771127
評価	評価理由
В	地域学校協働活動の充実を図るため、社会教育指導員を4名、統括指導員1名を配置し、各町単位で各地域学校協働本部の立ち上げや運営に対し、社会教育指導員が伴走支援を行う体制ができたことで、多くの学校に学校運営協議会が設置され、コミュニティスクールとして運営されていることは評価できる。さらには、各公民館事業を委託している「NPO法人夢の学習」の業務仕様内容を受益者負担の原則を踏まえ検討されたことや、NPO法人が実施する事業が社会教育指導員の指導のもと安全に実施されたことについても評価できる。  一方で、県内各市町と同様、その仕組みや考え方を浸透させ、学校の課題(いじめ、不登校や学力、スマホ依存、コミュニケーション能力の育成など)を地域として学校とともにどのように解決していくが模索されたい。また、両輪として進める地域学校協働活動とはねらいが異なることを再確認し、さらなる検討が望まれる。さらに、自治振興会やまちづくり協議会等との連携が一層深まり、生涯学習のまちづくりが大きく進むことや地域を巻き込んだ事業の実施、積極的な情報発信を期待する上で、社会教育指導員の配置について地域格差の是正や地域の実情に精通した人材の確保に努められたい。併せて、社会教育を担う教育委員会部局と自治振興会活動等を担う市長部局との調整や施策の方向性を明確にすることで公民館、自治振興会、地域学校協働本部など社会教育に関わる組織の役割が明確になるよう取り組みつつ、自治振興会やまちづくり協議会、公民館のそれぞれの活動との連携や協働の仕方が明確になることを期待する。また、NPO法人の業務仕様内容について、さらなる改善に取り組まれたい。

### 教育行政評価委員点検・評価結果を踏まえての教育委員会の今後の取り組み(具体的方策)等について

地域学校協働活動については、すべての小学校に地域学校協働本部を設置できるよう、社会教育統括指導員が引き続き 伴走型の支援を行ってまいります。学校と地域が「地域課題」を共有し、一体となって子どもを育むことで、地域の活性 化と未来を担う人材の育成につなげていきます。 またこの取り組みを通じて、学校や地域の方々に「地域学校協働活動」とは何か、その理念や意義を分かりやすく伝 え、地域ぐるみの教育づくりが社会全体の力となることを周知してまいります。そのためには、学校は教育の場としての 専門性を発揮し、地域は豊かな人材力と経験を提供するなど、それぞれの強みを生かす役割分担を明確にしていくことと します。

さらに、生涯学習の推進に向けては、公民館等で実施している講座のNPO法人へ委託内容を精査し、講座で育成された ボランティアが自治振興会やまちづくり協議会など、地域運営に寄与できる場で活躍出来るよう、市長部局とも連携を深めてまいります。こうした仕組みづくりを通じて、社会教育関連組織と地域が果たすべき役割をより一層明らかにし、学 びと協働を基礎とした持続可能な地域づくりを推進していきます。

						̈́Τ̈́	<b>ተዘ</b> /	平 反	中 <b>貝</b> 甲 教 月 安 貝	!会施策の点検・評値 
事業名     紫香楽宮跡史跡整備事業 								ı		
	担当課室名			歴史文化財課	į	執行方法				
		コード	-	名称 名称		ᄼᄘ		コード	一般会計	名称
	分野	6	l F	歴史・文化財・景観		会計款		01 10	一般云計   教育費	
総	/525	Digital Control			予	項		05	社会教育費	
総合計					算 科 目	B		04	文化財保護費	
画	施策	1	]	文化財の調査と保護		大事業		04	文化財保護調査普及	
						中事業		02	市内遺跡緊急発掘: 紫香楽宮跡史跡整備	
<b>≯</b> ⁄л		コード	2	名称		令和6:	 年度		予算額	決算額
教 育 振	教育分野	D	<b>康</b>	<b>史・</b> 文化財		総	計		48,972	16,603
振興			——————————————————————————————————————	~ ~10%	財 源	国庫支				
興 基 本	教育施策の柱 (大区分)	(1)	文	化財調査と保護	内訳	県費支 地方		Ž	45,400	15,000
計	教育施策		+			その他特			70,700	10,000
画	(中区分)	1	又们	比財の調査、保護、保存による歴史文化遺産の継承 		一般	財源		3,572	1,603
	法令等根拠	文化則	材保護	法						
	個別計画等			宮跡保存管理計画書、史跡紫香楽宮跡整備活営跡の保護を永続的かつ次世代に適切に						も。また、紫香楽宮跡の
	事業概要			方針と発掘調査報告書刊行のための検討						
		来訪者	(2)活動内容・・・・どのようなことを行うのか							
	事	中跡姕割	<b>玉</b> 必字	行動計画 跡(宮町地区)第1期整備工事の実施		中跡。	<b>步</b> 香地	3. 空間 (空間	実績 町地区)第1期整備工	<u>事の実施(未完了)</u>
	事 業 の	<ul><li>コン!</li></ul>	クリー	·卜系舗装工事1,455.8㎡		• ⊐ :	ンクリ	ノート系舗:	装工事1,455.8㎡	
	日 的 等			事(柱表示)70基 会の開催 2回/年、専門部会の開催 2回	・遺構表示工事(柱表示)70基 /年 調査整備委員会の開催 1回/年、専門部会の開催 1回/年					会の開催 1回/年
	4	(3)	胡待で	きる効果・成果・・・・成果目標・期待す	する成果					
				目標値	実績値					
		史跡公園	園の整	備を完了し、供用開始すること。	史跡公園整備は繰越となり、年度内に供用開始することはできなかっ た。					
					参考年度末における進捗率:80%、完了日:令和7年4月30日					
		評価	欄			評	価の <del>I</del>	理由		
	担当課評価	Е	}	めることができた。	3史跡公園整備は外的要因により繰越となった。 こ。 経記録の整理が想定以上に難航し、調査整備委					開始できるよう、整備を進
	教育委員会		j (1)	L 欠評価)		項		判断		评価理由
		評価		評価理由					史跡公園整備は繰越る	となり、令和7年度春に竣
	小人亦		史跡の	)適正な保存を図るため、整備を進めた。		事業	規模	縮小	工及び供用開始した。 査報告書の刊行を終え	今後の整備は残る発掘調えてからとなる。
	必要性	適切								
事業の評価	有効性	\ <del></del>	に解説	が現地に柱表示及び建物規模感を表す舗装並で が板を設置する史跡公園という形をとること を好家以外にも歴史を体感しやすい整備を行っ		事業の方句生 手法	改姜	維持		舌用検討と発掘調査報告書 き調査整備委員会を開催 検討等を行う。
1Ш	効率性		く、ま	公園整備地は信楽インターチェンジからほど近た、道路脇に誘導看板を設置したことで県外 の来訪者も期待できる。						
							1:		144	/ · · · · ·
		J					₩ <b>~</b> +	日本	: 拡充・維持・縮小・	<b>休</b>    ★

	教育委員会点検・評価(2次評価)
評価	評価理由
В	年度内に完了することができず、次年度に繰越という結果になったが、次年度の早期に完了することができたことは評価できる。委員会及び専門部会は、計画していた回数を開催できなかったので、計画の設定や開催に至るまでの経緯を検証し、今後の行動計画に反映する必要がある。 今後は、発掘調査報告書を早期に刊行することとし、史跡公園は、地域の公園としての利用や史跡公園としての有効活用できるよう地元や関係機関と連携して進め、甲賀市の大切な史跡を良好な状態で次世代に適切に継承できるよう努められたい。

	教育行政評価委員点検・評価(最終評価)							
評価	評価理由							
В	紫香楽宮跡の保存活用のために史跡公園として整備されたことは宮町や信楽地区全体の知名度も上げ、郷土の歴史や風土に愛着を持つために大変有効である。工事についても外的要因により年度内に完工できなかったものの、次年度早期に完了できた点について評価できる。引き続き発掘調査記録の整理を進め、令和6年度には1回の開催にとどまった調査整備委員会を開催し、早期の発掘調査報告書の刊行に努めるとともに活用方針の検討を重ねられたい。今後の活用として、ラベンダー畑の拡充と併せてこの史跡公園が新名神高速道路の信楽インターチェンジに近接している地理的優位性を活かし、信楽焼や甲賀忍者、東海道宿場町、土山道の駅などの他の観光資源と合わてこの史跡公園も大いにPRすることも考えられる。また、歴史愛好家や遠方からの観光客誘致に貢献できるよう、分かりやすく親しみやすいパンフレットを作成することや当時の建築物の全体像をプロジェクションマッピングで映像化するなど、観光施策と連携し、多くの甲賀市民が甲賀市の文化や歴史に興味関心を持ち、甲賀市に愛着を持つことができるような事業展開を期待する。							

### 教育行政評価委員点検・評価結果を踏まえての教育委員会の今後の取り組み(具体的方策)等について

紫香楽宮跡の保存活用のため、調査整備委員会を開催し、遺構及び遺物の検討を行い、早期の発掘調査報告書の刊行に努める。また、メディア露出が恒例となってきたラベンダー畑の取り組みや、来春の開花をめざす史跡公園のレンゲ植栽地を誘客要素として有効活用することで歴史愛好家以外にもPRし、さらに、これらが信楽インターチェンジ至近という立地を活かし、甲南町のリアル忍者館や、土山町の道の駅や東海道宿場町といった他町の観光コンテンツへの誘導につなげたい。 また、来場者の歴史文化理解の一助とするため、親しみやすいパンフレットや当時の建築物の全体像の映像化を検討するとともに、紫香楽宮跡関連遺跡群発掘調査事務所兼展示室の展示リニューアルを計画する。

								甲賀市教育委員			
	事業名	保育士品	研修事業(保育内容の充実	とに向けた事業)							
	担当課室名		こども政策部 保育:	幼稚園課	=	執行方法		直営			
		コード	名詞	称			コード				
総合	分野	17	子ども・子育て		予	会計 款 項	01 03 03	一般 民生費 児童福祉費			
計画	施策	52	就学前教育、保育の充	<b>注</b>	算 科 目	大事業 中事業 小事業	03 08 01 01	保育園費 子育て支援環境整備 子育て支援環境整備 保育士研修事業			
教		コード	名	称		令和6年度		予算額	決算額		
育振	教育分野	А	子ども・子育て		n-t	総計		2,577	2,312		
興基	教育施策の柱(大区分)	1	就学前教育の充実		財源内	国庫支出金 県費支出金		253	1,359		
本計画	教育施策(中区分)	2	学びの芽生えを育み、京 教育・保育活動の推進	 t学につなげる	訳	地方債 その他特定則 一般財源	<b>対源</b>	2,324	953		
	法令等根拠	_	1			ריין נאצפו		2,024	300		
	個別計画等	甲賀市	子ども・子育て応援団支援	爰事業計画							
	事業概要	・保育の 保 ( 講規 ( 新 ( 育の ( 育の ( すの の び ( の の の の の の の の の の の の の の の の	子育て支援体制整備総合持 質向上・人材確保につなが 質向上・人材確保につなが の質の向上のための研修 師謝礼、消耗品費、通信資 卒業者の確保、就業継続 所謝礼、消耗品費、通信資 質の向上に向けた保育内 育プロジェクト のび運動遊び:リズムある ブセミナー:研修委託業者	がる研修事業 重搬費、物品借上料) 支援事業 重搬費) 容の検討と充実 そび研修の実施(講師譲	前礼)、	作業療法士に			<b>達促進</b>		
		市内全保育	(1)対象・・・・離に(何に) 市内全保育士・幼稚園教諭 潜在保育士								
	事業の目的等	(2)活動内容・・・・どのようなことを行うのか 行動計画 実績 年間研修計画を年度当初に周知し、キャリアに応じた研修の実施 実践的な研修内容 先駆的実践を進めている講師による指導助言 時間、場所を問わず研修が受講できるライブセミナー研修の実施									
		(3)期		<ul><li>・・・成果目標・期待す</li></ul>	する成果						
				黑値		実績値					
			目標					実績値			
		保育の質问	に応じた研修会の開催	220		キャリアに保育の質の	白上研修会	修会 17回			
		保育の質问	こ応じた研修会の開催 句上研修会の開催 2 につながる研修会の開催	220		キャリアに保育の質の	旬上研修会 こつながる	修会 17回 22回			
	担当課評価	保育の質問人材確保に	に応じた研修会の開催 句上研修会の開催 につながる研修会の開催 ・計画した研修につ ・各分野の資質向上 さらに質の向上を	22回3回30	味したが くような	キャリアに 保育の質に 人材確保に ごとができたが、特に地域型 な研修内容を検	向上研修会 こつながる 理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	修会 17回 : 22回 :研修会の開催 3回 所においては、乳児保育 く必要がある。	<b></b> 「こついて		
	担当課評価	保育の質問人材確保に	に応じた研修会の開催 句上研修会の開催 につながる研修会の開催 ・計画した研修につ ・各分野の資質向上 さらに質の向上を ・ライブセミナーは	2 2 回 3 回 いては、全て予定通り: のため、研修内容を吟じ	味したが くような	キャリアに 保育の質に 人材確保に ごとができたが、特に地域型 な研修内容を検	向上研修会 こつながる 理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	修会 17回 22回 研修会の開催 3回 所においては、乳児保育 く必要がある。 き視聴を促す。	平価理由		
		保育の質点人材確保は	に応じた研修会の開催 句上研修会の開催 につながる研修会の開催 ・計画した研修につ ・各分野の資質向上 さらに質の向上を ・ライブセミナーは	22回 3回 いては、全て予定通り: のため、研修内容を吟じめざし、実践に結びつい 令和7年12月まで視聴	味したがくような。	キャリアに 保育の質に 人材確保に ることができた が、特に地域型 は研修内容を検 延長されたため	回上研修会 こつながる 理由 :。保育していい に対してき続	修会 17回 22回 研修会の開催 3回 所においては、乳児保育 く必要がある。 き視聴を促す。	平価理由 )ては、令和7年度に新規(		
		保育の質問人材確保にいる。  「評価機関係」  「評価機関係」  「評価の関係」  「評価機関係」  「記検・評価(保施」	に応じた研修会の開催 句上研修会の開催 につながる研修会の開催 ・計画した研修につ ・各分野の資質向上 さらに質の向上を ・ライブセミナーは	22回 3回 3回 のため、全て予定通りでのため、研修内容を吟でめざし、実践に結びつでものでは、実践に結びつででもでいますで視聴である。 であれて年12月まで視聴しますで視聴しますでは、ままでは、ままでは、ままでは、ままでは、ままでは、ままでは、ままでは、	味したがくような。期間が	キャリアに 保育の質に 人材確保に ることができた が、特に地域型 は研修内容を検 延長されたため	回上研修会 こつながる 理由 :。保育していい に対してき続	修会 17回 22回 研修会の開催 3回 研修会の開催 3回 可においては、乳児保育 く必要がある。 き視聴を促す。 ライブセミナーについ 契約は質質向上に向い 研修については、講師	平価理由 ハては、令和了年度に新規 手12月までの視聴とする。 けた研修やキャリアに応じ 近と調整を図りながら進め 医の事業規模を維持、継続		
事業の評価	教育委員会点 必要性 必要性 () () ()	保付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付付	こ応じた研修会の開催 向上研修会の開催 ・計画した研修会の開催 ・計画した研修につ ・計画リた研修につ ・音からにでするができます。 ・ライブセミナーは ・ライブセミナーは ・ライブセミナーは ・ライブを身にでして、では、 育の質の上にである必ずである。 育な善などっている。	22回 3回 3回 3回 3回 3回 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30	味く期間では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	キャリアに 保育の 人材確保に シングできた が、研修内容を検 延長されたため 項目	回上研修会 こつながる 理由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	修会 17回 22回 3回	平価理由  Tでは、令和7年度に新規ででは、令和7年度に新規ででの視聴とする。  大きの事業規模を維持、継続での事業規模を維持、継続である。  「研修への移行を図る。 「の選定をする。		
の評	教育委員会点 必要性 必要性 () () ()	保人の確保には、「一般のでは、「一般のでは、「一般のでは、」を表する。 はい	こ応じた研修会の開催 向上研修会の開催 につながる研修会の開催 ・計画した研修につ ・計画した研修につ ・音分らにで ・ライブセミナーは ・ライブセミナーは ・ライブを見に向けて、のは での質向上に向けて、つけて、のは でのででであるがです。 でのでは、このでは、 でのでは、このでは、 でのでは、このでは、 でのでは、このでは、 でのでは、このでは、 でのでは、このでは、 でのでは、このでは、 でのでは、このでは、 でのでは、このでは、 でのでは、このでは、 でのでは、このでは、 でのでは、このでは、 でのでは、このでは、 でのでは、このでは、 でのでは、このでは、 でのでは、このでは、 でのででのでは、 でのでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがでがで	22回 3回 3回 3回 3回 3回 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30	味く期間では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	キ(大)       おいまで       おいまで       この       この <td>型 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・</td> <td>修会 17回 22回 3回 3回</td> <td>平価理由  Tでは、令和7年度に新規では、令和7年度に新規では、令和7年度に新規では、での視聴とする。 対た研修やキャリアに応じがら進めである。 をの事業規模を維持、継続をある。  での移行を図る。 のの選定をする。 の選定をする。 の選定をする。 の音を体の保育の質向上をめる。</td>	型 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	修会 17回 22回 3回	平価理由  Tでは、令和7年度に新規では、令和7年度に新規では、令和7年度に新規では、での視聴とする。 対た研修やキャリアに応じがら進めである。 をの事業規模を維持、継続をある。  での移行を図る。 のの選定をする。 の選定をする。 の選定をする。 の音を体の保育の質向上をめる。		

	教育委員会点検・評価(2次評価)
評価	評価理由
В	公立・私立を対象として、市が職員の研修機会を提供することにより、市全体の保育の質の向上につながっている。体系的な研修計画に基づき、様々な分野、キャリアステージに分けて開催すること及び具体的な研修内容を周知することにより、保育土が各自のキャリアや課題感にあった研修を受講でき、専門性を高めることができている。 幼児教育プロジェクトのリズムあそび研修では、2日間で94人の参加があり、学んだことを活かして各園でリズムあそびが展開され、子ども達の心と体の育成につながっている。また、ライブセミナーでは、「場所や時間を問わず、自分のタイミングで受講することができてよかった」という意見が多く主体的な学びの機会となった。令和6年4月に小規模保育事業所が1園開園したこともあり、「O. 1.2歳児の保育」については公立、私立園ともに保育の質を向上させていく必要性がある。研修での学びがすぐに保育に活かせるような、講義と実践を組み合わせた研修内容の検討が必要である。

	教育行政評価委員点検・評価(最終評価)							
評価	評価理由							
В	公的な支援として、公立、私立の分け隔てなく保育園やこども園全体の幼児保育、教育の質の向上に向けて職員のキャリアに応じた多くの研修や個人のライフスタイルに合わせ主体的な学びの機会としてのライブセミナーを計画的に進め、虐待防止や人権研修など目標とした研修は全て実施でき、市全体の保育等のレベルアップに取り組んだことは評価できる。 一方、運動を伴う集団遊びの充足は今日の子ども達の育ちにおいて重要な発達課題であり、保育等の中核となる学びであることを再確認し、研修を充実させるとともに、子ども達の心身の育成に繋がる言葉がけや遊びの提供に努められたい。担当課評価にもあるように特に乳児保育は、実践に結びつくような内容の研修が実施されることを期待する。併せて、保育等の質の維持、向上のためには適切に人材が確保されることが必要であることから、労働環境の更なる向上に引き続き取り組まれたい。また、少子化対策における育体制度の普及の問題などについては、国や県全体の政策課題と考えるため、県を含む関係機関とさらに連携し、乳児保育の充実に取り組まれることを期待する。							

# 教育行政評価委員点検・評価結果を踏まえての教育委員会の今後の取り組み(具体的方策)等について

今後も甲賀市の保育の質向上に向け、公立園・私立園がともに学び合える研修の機会を大切にし、内容を充実させてい きたい。

運動あそびにおいては、日々の取り組みの継続が子ども達の心身の発達につながると考える。子ども達が楽しんで自らやってみようと思えるような教育・保育内容や環境を各園で充実できるよう、さらに研修内容を充実させたい。

乳児期は、心身ともに著しい発育・発達が見られる時期であるため、しっかりと発達段階をおさえながら、保育者との信頼関係のもと、安心してのびのびと生活できるように各園で保育環境の充実を図る必要がある。そのため、公開保育と 講義を組み合わせた研修を充実させ、保育の実践で学んだことを活かせるようにしていきたい。

講義を組み合わせた研修を充実させ、保育の実践で学んだことを活かせるようにしていきたい。 保育士の確保は、保育サービスや子育て支援等、甲賀市の子どもの育成には大変重要と考えている。私立園の数が公立 園を上回っている現状の中、県や関係機関とも連携しながら、公立、私立の分け隔てなく、安定したサービスを維持して いけるよう、保育士確保や定着支援、労働環境の向上に引き続き力を入れていきたい。

#### ■ 甲賀市教育行政評価制度の概要

### 1. 甲賀市教育行政評価委員会の構成

甲賀市附属機関設置条例に基づき下記のとおり委嘱しました。人数:5人 委員名簿 (資料「甲賀市附属機関設置条例」参照)

役 職	氏:	名	委員の構成	任 期
委員長	北川昌	書美	教育関係者	令和2年6月1日~令和4年5月31日 令和4年6月1日~令和6年5月31日 令和6年6月1日~令和8年5月31日
副委員長	黒川昌	引明	教育関係者	令和6年6月1日~令和8年5月31日
委 員	西出八	(津子	その他教育委員会 が適当と認める者	令和4年6月1日~令和6年5月31日 令和6年6月1日~令和8年5月31日
委 員	奥嶋た	こみ子	その他教育委員会 が適当と認める者	令和6年6月1日~令和8年5月31日
委 員	神山 裕	谷史	その他教育委員会 が適当と認める者	令和6年6月1日~令和8年5月31日

### 2. 甲賀市教育行政評価委員会の活動経過

甲賀市教育行政評価委員会は、点検・評価対象事業を選定し、教育委員会事務局が行った事務事業に対して事業担当課からヒアリングを実施しました。

ヒアリングにおける説明や質疑により委員ごとに各事業を評価し、教育行政評価委員会 として評価を決定し答申書を作成されました。

委員会の活動経過は、下記のとおりです。

日時	内容
令和7年6月10日(火)	第1回甲賀市教育行政評価委員会 ・ 会議の公表について ・ 評価手法等について ・ 点検及び評価の対象事業の選定について ・ 評価対象事業選定にかかる所管課説明
令和7年7月2日(水)	第2回甲賀市教育行政評価委員会 ・ 評価対象事業の選定
令和7年7月30日(水)	第3回甲賀市教育行政評価委員会 ・ 最終評価にかかるヒアリング実施 (学校教育課、社会教育スポーツ課、歴史文化財課、 保育幼稚園課)

令和7年8月28日(木)	第4回甲賀市教育行政評価委員会 <ul><li>事業別評価の確定及び所見について</li></ul>
令和7年9月26日(金)	第5回甲賀市教育行政評価委員会 ・ 答申書案の確認について
令和7年10月7日(火)	<ul><li>甲賀市教育行政評価答申書提出</li></ul>

### 3. 点検・評価の対象となる事業

### (1) 対象事業

点検・評価の対象は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第21条で「教育委員会の職務権限」と規定されている事業で、「甲賀市教育振興基本計画」により実施されている主要施策等を中心に評価を行いました。

#### (2)対象事業の選定方法

点検・評価対象事業の選定作業は次の方法で選定しました。

- I 各委員が評価すべき事務事業を抽出。
- Ⅱ 抽出された事務事業を必要に応じて、事業担当課の概要説明を求めながら委員の 合議制により7事業を最終決定。

### 4. 点検・評価の視点

評価項目は、「目的の必要性」、「成果の有効性」、「手法の効率性」とし、評価については、事業の効率性だけではなく、大局(教育的見地から必要か)から局部(施策を実施するためのコストは適正か)へ分析的評価を行いました。

また、分析的評価を踏まえて今後の事業の方向性(事業の規模、手法の改善)を判断しました。

評価に関する論理的な流れ					
必要性 有効性 効率性 (教育的な見地から) (必要性を踏まえて) (必要性・有効性を踏まえて)					
そも	そも事業として必要か	効果的な手法か	効率化の余地はないか		

### 5. 評価基準

施策の目標に対して、「必要性」、「有効性」及び「効率性」等を総合的に判断し、下 記に示す5区分から達成度を評価しました。

	評価	評価基準
	予想以上に効果的で	○ 予想以上に効果的で他の事業にも影響を与える等優れた
S	優れた取り組みを行	取り組みを行った
	っている	○ 活動及び施策の目的達成に向けて予想以上の成果を上げ
		た
		○ 課題や問題点が全くなかった
	順調に達成している	○ 効果的で優れた取り組みを行った
A		○ 活動及び施策の目的達成に向けて大きな成果を上げた
		○ 課題や問題点はほとんどなかった
	概ね順調に達成して	○ 効果的な取り組みを行った
В	いる	○ 活動及び施策の目的達成に向けて一定の成果を上げた
		○課題や問題点が多少残った
	- L. B	-
	達成見込みであるが	〇 取り組みを行った
С	一部課題がある	○ 活動及び施策の目的達成に向けて多少の成果を上げた
		○ 課題や問題点が多く残った
	達成に向け困難な課	○ 取り組みを行わなかった
D	題がある	○ 活動及び施策の目的達成に向けて成果が上がらなかった
		○ 大きな課題や問題点が多く残った

### ■ おわりに

甲賀市教育委員会では、本市のめざす教育の姿を明確にするため、総合的な施策の根本を 「甲賀市教育大綱」で定め、具現化した「第3期甲賀市教育振興基本計画」に基づき、教育 施策を推進しています。

効果的な教育行政の推進を図ることを目的に、事業効果を高めるPDCAサイクルを確立する有効な手段として、甲賀市教育行政評価委員会の知見を活用した点検及び評価を実施、改善や工夫に取り組んでいます。点検・評価結果を最大限に生かして市民の皆様に、よりご満足いただける教育行政サービスの提供と説明責任を果たせるよう努めてまいります。

平成25年12月18日

条例第35号

改正 平成27年6月15日条例第17号

平成28年3月9日条例第3号

平成28年6月22日条例第18号

平成29年3月30日条例第5号

(趣旨)

第1条 この条例は、法律若しくはこれに基づく政令又は他の条例に定めるものの ほか、地方自治法(昭和22年法律第67号)第138条の4第3項に基づき、 市の設置する執行機関の附属機関について必要な事項を定めるものとする。

(設置等)

- 第2条 執行機関の附属機関として、別表に掲げる機関を設置し、その担任する事務並びに委員の構成、委員数及び委員の任期は、同表に定めるとおりとする。
- 2 委員は、執行機関が委嘱し、又は任命する。
- 3 別表の規定にかかわらず、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は、再任されることができる。

(委任)

第3条 この条例に定めるもののほか、附属機関の組織、運営その他必要な事項は、 執行機関が規則で定めるものとする。

付 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。
  - (甲賀市総合計画策定審議会条例等の廃止)
- 2 次に掲げる条例は、廃止する。
  - (1) 甲賀市総合計画策定審議会条例(平成17年甲賀市条例第1号)
  - (2) 甲賀市特別職報酬等審議会条例(平成17年甲賀市条例第2号)
  - (3) 甲賀市公有財産審議会条例(平成20年甲賀市条例第43号)
  - (4) 甲賀市公共下水道事業審議会条例(平成17年甲賀市条例第24号)

- (5) 甲賀市文化のまちづくり審議会条例(平成17年甲賀市条例第27号)
- (6) 甲賀市史編さん委員会条例(平成17年甲賀市条例第18号)

(経過措置)

- 3 前項の規定による廃止前のそれぞれの条例による附属機関及びその委員は、この条例の規定による相当の附属機関及びその委員となり、同一性をもって存続するものとする。この条例の施行の際執行機関が定めているところにより置かれている委員会その他の合議制の機関及びその委員についても、同様とする。
- 4 付則第2項の規定による廃止前のそれぞれの条例の規定による附属機関に係る 諮問、答申その他の行為は、この条例の規定による相当の附属機関に係る諮問、 答申その他の行為とみなす。前項後段に規定する委員会その他合議制の機関に係 る諮問、答申その他の行為についても同様とする。

付 則(平成27年条例第17号)

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行後、最初に委嘱される甲賀市地域福祉計画審議会の委員の任期 は、別表の1の表の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。

付 則 (平成28年条例第3号)

(施行期日)

1 この条例は、平成28年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 改正前の甲賀市附属機関設置条例に定める甲賀市公共下水道事業審議会及びその委員は、甲賀市下水道審議会及びその委員となり、同一性を持って存続するものとする。

付 則(平成28年条例第18号)

この条例は、公布の日から施行する。

付 則(平成29年条例第5号)

この条例は、平成29年4月1日から施行する。

別表(第2条関係)

1 市長の附属機関

名称	担任する事務	委		委員	委員の任
				数	期
甲賀市総合	総合計画の策定及びその推	(1)	市民	2 0	2年
計画審議会	進に関する事項について調	(2)	学識経験を有す	人以	
	査し、審議すること。	る者		内	
		(3)	その他市長が適		
		当と認	ひる者		
甲賀市公共	持続可能なまちづくりの概	(1)	市長が指名する	2 5	1 年
交通活性化	念を基本とした公共交通体	職員		人以	
まちづくり	系及び基本構想策定につい	(2)	その他市長が適	内	
推進協議会	て調査及び研究し、審議する	当と認	ひる者		
	こと。				
甲賀市国際	国際化推進計画の策定につ	(1)	市民	1 0	1年
化推進委員	いて調査し、審議すること。	(2)	各種団体等の代	人以	
会		表者		内	
		(3)	その他市長が適		
		当と認	ぬる者		
甲賀市特別	議会の議員の議員報酬の額	(1)	市内の公共的団	1 0	委嘱の日
職報酬等審	及び特別職の職員で非常勤	体等の	代表者	人以	から審議
議会	のものの報酬の額並びに市	(2)	その他市長が適	内	が終了す
	長、副市長及び教育長の給料	当と認	以める者		る日まで
	の額について審議すること。				
甲賀市指定	公の施設の指定管理者の選	(1)	学識経験を有す	5 人	2 年
管理者選定	定に関する事項について審	る者		以内	
委員会	査すること。	(2)	公の施設の利用		
		者			
		(3)	その他市長が適		
		当と認	ぬる者		
甲賀市行政	行政改革に関する事項につ	(1)	学識経験を有す	1 0	2年

改革推進委	いて調査し、審議すること。	る者		人以	
員会		(2)	その他市長が適	内	
		当と認	ぬる者		
甲賀市公有	公有財産の取得、管理及び処	(1)	学識経験を有す	7人	2年
財産審議会	分について調査し、審議する	る者		以内	
	こと。	(2)	市長が指名する		
		職員			
		(3)	その他市長が適		
		当と認	ぬる者		
甲賀市入札	市が発注する公共工事等に	(1)	学識経験を有す	5 人	2年
監視委員会	関する入札及び契約の適正	る者		以内	
	化を図るために必要な事項	(2)	その他市長が適		
	について調査し、審議するこ	当と認	ぬる者		
	と。				
甲賀市地域	社会福祉法(昭和26年法律	(1)	市民	1 5	2年
福祉計画審	第45号)第107条に規定	(2)	学識経験を有す	人以	
議会	する地域福祉計画の策定及	る者		内	
	びその推進について調査し、	(3)	地域福祉関係団		
	審議すること。	体の代	表者		
		(4)	社会福祉事業関		
		係団体	の職員		
		(5)	その他市長が適		
		当と認	める者		
甲賀市商工	商工業振興計画の策定及び	(1)	市民	1 8	2年
業振興計画	その推進について調査し、審	(2)	学識経験を有す	人以	
審議会	議すること。	る者		内	
		(3)	商工業関係団体		
		の代表	者及び構成員		
		(4)	その他市長が適		

甲賀市男女 男女共同参画社会の形成に (1) 市民 共同参画審 関する基本的かつ総合的な (2) 学識 議会 事項について調査し、審議す る者	経験を有す人以内	2年
	内	
議会 事項について調査し、審議す る者		
ること。 (3) その	他市長が適	
当と認める	者	
甲賀市観光 観光振興計画の策定及びそ (1) 市民	1 2	2年
振興計画審 の推進について調査し、審議 (2) 学識	経験を有す人以	
議会すること。る者	内	
(3) 観光	等産業関係	
団体の代表	者及び構成	
員		
(4) その	他市長が適	
当と認める	者	
甲賀市下水 下水道事業の経営、将来計画 (1) 受益	者の代表者 20	2年
道審議会 及び健全な運営並びに汚水 (2) その	他市長が適人以	
処理に関する事項について 当と認める	者内	
調査し、審議すること。		
甲賀市立信 病院改革プランの改定並び (1) 医療	関係者 6人	3 年
楽中央病院 に実施状況を点検及び評価 (2) 学識	経験を有す以内	
経営評価委 し、審議すること。 る者		
員会 (3) 関係	行政機関の	
職員		
(4) 福祉	:関係者	
(5) その	他市長が適	
当と認める	者	
甲賀市水口 経営計画の改定並びに実施 (1) 医療	関係者 8人	3年
医療介護セ 状況を点検及び評価し、審議 (2) 介護	関係者 以内	
ンター経営 すること。 (3) 学識	経験を有す	

評価委員会	る者		
	(4)	関係行政機関の	
	職員		
	(5)	福祉関係者	
	(6)	その他市長が適	
	当と認	恩める者	

# 2 教育委員会の附属機関

名称	担任する事務	委員の構成		委員	委員の任
				数	期
甲賀市教育	教育委員会の権限に属する	(1)	教育関係者	5人	2年
行政評価委	事務の管理並びに執行状況	(2)	その他教育委員	以内	
員会	の点検及び評価結果につい	会が適	5当と認める者		
	て調査し、審議すること。				
甲賀市教育	特別な支援を必要とする乳	(1)	医師	3 5	1 年
支援委員会	幼児、児童及び生徒の適切	(2)	学識経験を有す	人以	
	な就学支援その他の教育支	る者		内	
	援に関し、必要な事項につ	(3)	関係教育機関の		
	いて調査、審議及び助言す	職員			
	ること。	(4)	関係行政機関の		
		職員			
		(5)	教育委員会が指		
		名する	職員		
		(6)	その他教育委員		
		会が適	5当と認める者		
甲賀市青少	青少年を対象とした安全で	(1)	学識経験を有す	1 0	2 年
年自然体験	効果的な自然体験活動の普	る者		人以	
活動推進委	及推進について調査し、審	(2)	青少年関係団体	内	
員会	議すること。	の代表	者		
		(3)	関係行政機関の		

		職員			
		(4)	教育委員会が指		
		名する	職員		
		(5)	その他教育委員		
		会が適	5当と認める者		
甲賀市文化	文化芸術の振興及び施設に	(1)	市民	1 5	2年
のまちづく	ついて調査し、審議するこ	(2)	学識経験を有す	人以	
り審議会	と。	る者		内	
		(3)	その他教育委員		
		会が適	5当と認める者		

# 3 選挙管理委員会の附属機関

名称	担任する事務	委員の構成		委員	委員の任
				数	期
甲賀市投票	投票区域の編成に関する事	(1)	市民を代表する	1 5	委嘱の日
区域編成審	項について調査し、審議す	者		人以	から審議
議会	ること。	(2)	選挙管理委員会	内	が終了す
		が指名	する職員		る日まで
		(3)	その他選挙管理		
		委員会	が適当と認める		
		者			